

WilComm/400 Ver.8.03 & WilComm 5

Training Manual lesson 4

PC サーバー 設定の基礎

Manual No - TRN064

WilComm V8.03 & 5

© Copyright 2017

株式会社フェアディンカム

目次

1. ウィルコム処理概要	4
2. PC サーバー内ファイル関連図	6
3. PC サーバー側の作業手順概説	7
4. 配信計画を立てる	10
5. 配信定義作成(Distribution Wizard)	13
① プリント出力の場合	24
② メール送信の場合	32
③ FAX 送信の場合	57
④ ファイル保管の場合	66
6. 補足：アドレス帳の設定	96
7. 補足：条件「In」と「Contains」の使用方法	98

改訂履歴

日にち	改訂内容
2019/10/16	全体的なレイアウト変更
2019/12/24	32bit の記述を削除
2020/04/23	ファイル名の付け方の注意を追記
2020/05/25	FAX 優先順位（スケジュール）に関する記述を修正
2020/05/25	Distribution Wizard セクションの優先順位に関する記述を追加
2021/11/1	ファイル名を「式の作成」で定義した時の注意事項を追加
2022/08/30	条件「In」と「Contains」の使用方法を追記
2023/04/18	パスワード（機密保護タブ）を設定する際の注意事項を追加
2023/11/29	フォルダー名の末尾がドットで終わる場合の注意を追加
2024/01/16	ファイル名の末尾にファイル拡張子を付けないよう注意を追加

不明点等がございましたら下記連絡先までお気軽にお問い合わせください。

株式会社フェアディンカム

(WilComm サポートデスク)

メール wilcomm@fairdinkum.co.jp

電話 03-5809-3727

本解説書は、ウィルコム「**WilComm/400 Ver8.03 & PC WilComm 5**」を初めてお使いになるシステム管理者向けトレーニング・マニュアルです。

Lesson-4 では、PCサーバー におけるウィルコムの配信定義の設定方法について解説しています。

本解説書では、ウィルコムのオーバーレイ・フォームを使用しますが、フォームそのものの作成手順については述べられていません。以降の解説はオーバーレイ・フォームが作成済みであること及び、スプールデータのフォームへのマッピング定義も作成済みであることを前提にしています。

なお、オーバーレイ・フォームの作成手順につきましては、マニュアル「ウィルフォームス Forms Designer Tutorial」、マッピング定義の作成手順につきましては、マニュアル「ウィルフォームス Field Mapper Tutorial」を使用して、個人学習してください。

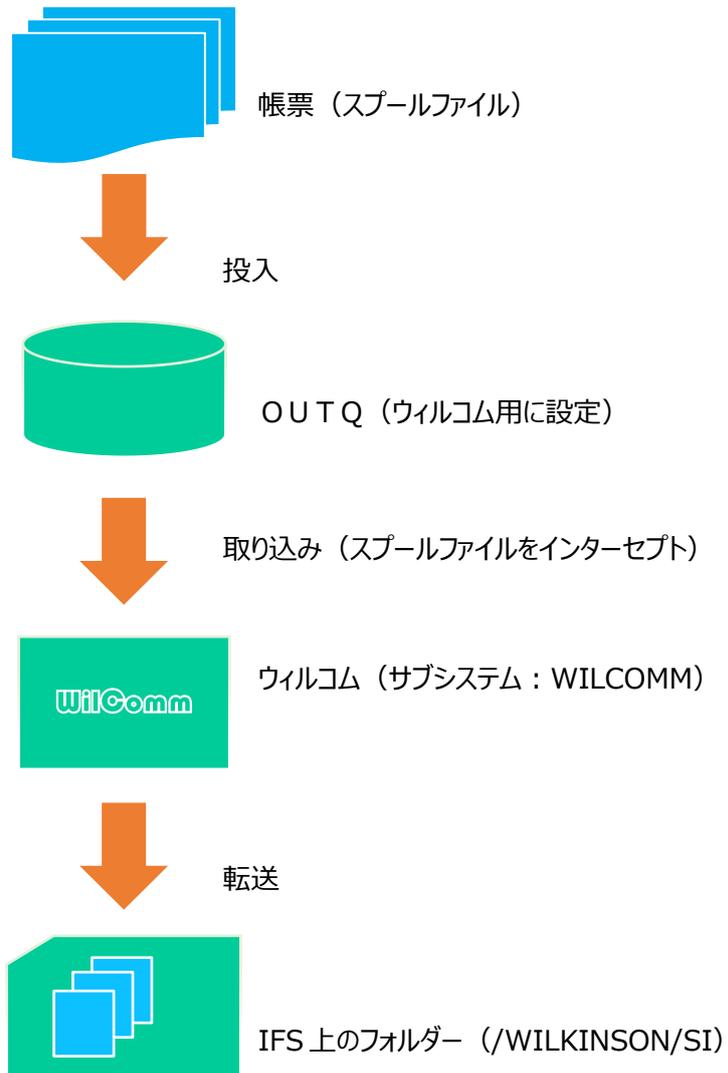
(目的)

1. Distribution Wizard の操作を理解する。
2. 配信定義（セクション）の構造を理解する。
3. スプールファイルの属性やスプールデータを使用した配信条件設定ができるようになる。
4. 配信方法・宛先・使用するオーバーレイ・フォームの設定ができるようになる。
5. 配信テストを行い、動作確認ができるようになる。

1. ウィルコム処理概要

ウィルコムは、ホストで作成された帳票を配信するためのシステムです。配信方法として、PC プリンター印刷、E-mail、FAX、ファイル保管を選択することが可能です。

ホストでの送信処理

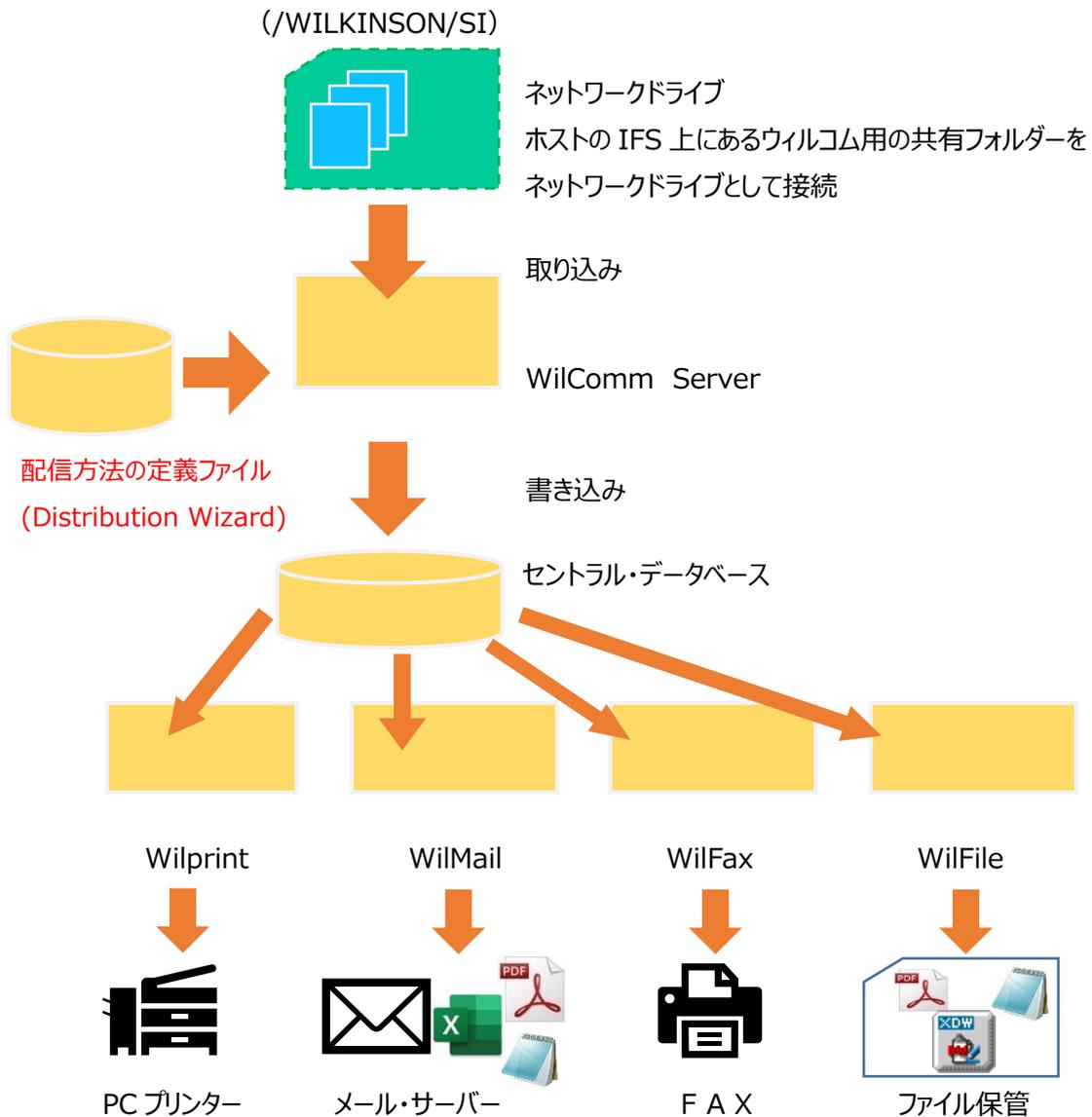


ウィルコムに監視対象として設定された OUTQ をサブシステム : WILCOMM が監視しています。OUTQ にスプールファイルが投入されると、ウィルコムがスプールデータを取り込んで P C サーバーへ送るためのフォーマットに整形します。整形されたデータは、ホストの IFS 上にありますウィルコム用フォルダーへコピーされ、この際に EBCDIC から ASCII へのコード変換が行われます。

Lesson-3 では、ここまでを学習しました。

Lesson-4 では、以下の流れについて学習します。

PC Server での送信処理



ホストの IFS 上のウィルコム用フォルダーが PC サーバー側でネットワークドライブとして割り当てされています。

WilComm Server というプログラムが、常時このネットワークドライブを監視しています。

ホスト側の処理でネットワークドライブにファイルが作成されると、これを PC サーバー側に取り込み、PC サーバー側に設定された配信方法を定義したファイルを検索し、条件が一致する定義があれば、これに基づいた配信処理手順がセントラル・データベースに書き込まれます。

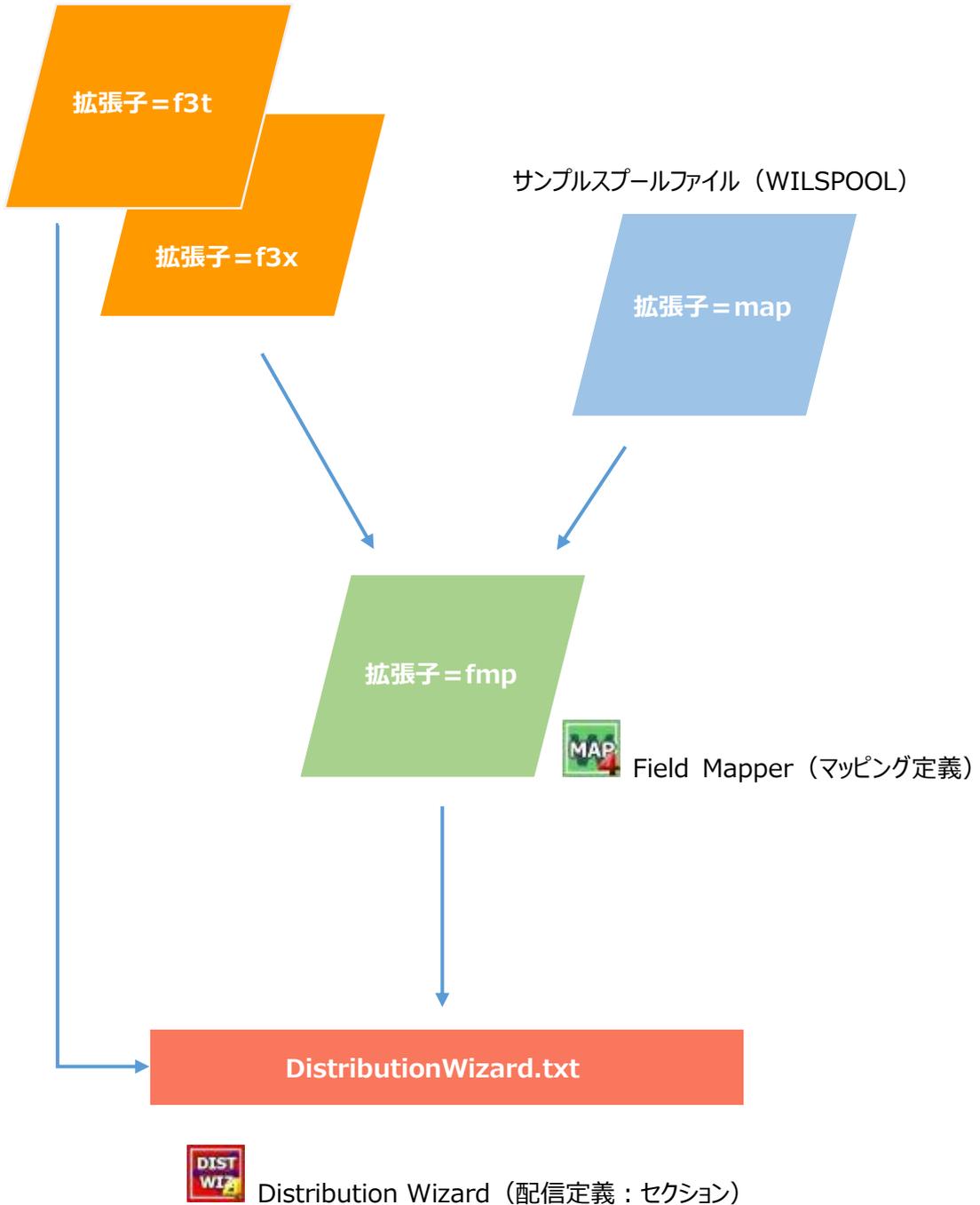
WilPrint、WilMail、WilFax、WilFile の各プログラムは、セントラル・データベースを常時監視していて

新しいデータが追加されると、それを取り込んで処理を行います。

2.PC サーバー内ファイル関連図



Forms Designer (オーバーレイ・フォーム)



3.PC サーバー側の作業手順概説

ウィルコムを使用したスプールファイル配信を実現するためには、PC サーバー側で以下の順序で作業する必要があります。

① オーバーレイ・フォームを作成する。

Forms Designer を使用してオーバーレイ・フォームをデザインします。

マニュアル「ウィルフォームス Forms Designer Tutorial」を使用してフォーム作成をマスターしてください。オーバーレイ・フォームの作成は、Forms Designer をクライアント PC にインストールして、クライアント PC で行うことをお勧めします。

WilComm が導入されているサーバーで Forms Designer を使用する場合、本番で使用しているオーバーレイ・フォームを直接開かないでください。

既存のオーバーレイ・フォームを修正する場合は、別の名前でコピーしたオーバーレイ・フォームを修正します。

修正が完了しましたら、既存のオーバーレイ・フォームの名前を変更してバックアップした後、修正したオーバーレイ・フォームの名前を正規の名前に変更して置き換えます。

WilComm が導入されているサーバーの以下のフォルダーに、**拡張子 = 「f3t」及び「f3x」**のフォームファイルを格納します。

C:\Program Files (x86)\Pentana Solutions\DocuSmart Suite\WilComm 4\WilForm \Forms
(ドライブ名はご使用の環境により異なる場合があります)

② サンプルスプールファイルを PC サーバーに取り込みます。(ウィルスプール・ユーティリティ)

①で作成したオーバーレイ・フォームにマッピングを予定している ホスト上のスプールファイルをサンプルとして PC サーバーに取り込みます。

取り込み方法はマニュアル「サンプルスプールファイルの作成」(AS0061)を参照してください。

以下のフォルダーに**拡張子=「map」**のファイルを作成します。

C:\Program Files (x86)\Pentana Solutions\DocuSmart Suite\WilComm 4\WilForm ¥
Sample Spool Files

(ドライブ名はご使用の環境により異なる場合があります)

③ マッピング定義を作成する。



Field Mapper を使用して、スプールファイルデータをどのようにしてオーバーレイ・フォームにマッピングするか
かの定義を作成します。

マニュアル「ウィルフォームス Field Mapper Tutorial」を使用してマッピング定義作成をマスターしてくださ
い。

①で作成したフォームファイルと②で作成したサンプルスプールファイルを使用して、**拡張子=「fmp」**のファ
イルを以下のフォルダーに作成します。

C:\Program Files (x86)\Pentana Solutions\DocuSmart Suite\WilComm 4\WilForm ¥
FieldMap Files

(ドライブ名はご使用の環境により異なる場合があります)

④ 配信定義を作成する。



Distribution Wizard を使用して、配信定義を作成します。

①で作成したフォームファイル、③で作成したマッピング・ファイルを配信定義（セクション）に指定します。配信定義にはその他、配信方法（FAX / Mail / Print / File）、配信先宛先（アドレス）の決定方法が含まれます。

Lesson-4 では、④Distribution Wizard の定義（セクション）作成手順について解説します。

オーバーレイ・フォーム及び、マッピング定義は作成済みであることを前提としています。

①オーバーレイ・フォーム作成及び、③マッピング定義作成につきましては、各チュートリアル・マニュアルを使用して個人学習してください。

★ ①②③で作成するファイルは管理上、同一名称にすることをお勧めします。

4. 配信計画を立てる

ウイルコムは複数種類のスプールファイルを配信することができます。（請求書、注文書、社内帳票 etc.）そのため、配信定義を作成する上では「これから作成する配信定義は、どのようなスプールファイルを配信するための定義」であるかを、明示的に区別しておく必要があります。

つまり、請求書の配信定義を作成するのか、注文書の配信定義を作成するのかといった、区別の方法を事前に計画しておく必要があるわけです。

また、その配信はどのような方法（FAX / Mail / Print / File）で何処へ配信するのか、配信するスプールファイルは、どのオーバーレイ・フォームを使用するのかといった情報も必要になってきます。

そこで、スプールファイルの配信定義を作成するためには、配信のための計画を立てる必要があります。

配信定義は、Distribution Wizard というツールを使用して作成します。

配信定義は「セクション」と呼ばれる単位で構成されます。「セクション」を構成する要素は以下の通りです。

① 条件 - 1 どのようなスプールファイルを処理するのか？

スプールファイル属性、スプールファイル名、用紙タイプ、ユーザーデータ etc.

② 条件 - 2 どのようなスプールデータを含んでいる場合に処理するのか？

スプールファイルの各ページに出力されている“ある印字データ”がどのような値か。

（例）スプールファイルの各ページの一行目一桁目の値 = “M” の場合

③ どのような方法で配信するのか？

FAX or Mail or Print or File

④ 何処へ配信するのか？

FAX=電話番号、Mail=メールアドレス、Print=プリンター名、File=保管先パス

宛先アドレスは、どのような方法で決定するのか。

⑤ どのオーバーレイ・フォームを使用するか？

Forms Designer で作成した「どのフォーム」をオーバーレイに使用するのか。

ホストから PC 側へ渡される印刷データは、次ページのような形式となっております。

そのサンプルデータを参考に、配信計画を立てることにしましょう。

どのような計画を立てれば、確実にライブラリーリストのスプールファイル“**だけ**”を目的の宛先に対して配信する定義が作成できるかを考えてみましょう。

```

S0006055_AAI - 処理画面
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)

MSX046Z1 AA
: <ADR2>=
: <DATA> *FORMAT=SSSL FORMTYPE
001 5722SS1 V6R6M0 040528 ライブラリー・リスト 6/08/01 15:23:22 s*-c* 1
1
1 [b*]j*- jb* ASP 装置 テキスト記述
1 WIL02962 SYS WILCOMM JAPANESE LANGUAGE SUPPORT V8.00+
1 OSYS SYS アシステム・ライブラリー
1 OSYS2 SYS CPT のシステム・ライブラリー
1 OHLPSYS SYS
1 OUSRSYS SYS System Library for Users
1 WILCOMM PRD WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
1 WILCOMM CUR WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
1 WILCOMM USR WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
1 WILCOMM USR WILCOMM VSN:8.03 - WILCOMM
1 OGPL USR GENERAL PURPOSE LIBRARY
1 OTEMP USR
1
1 ***** リストの終わり *****
: <DATAEND>
: <ATTRIBUTES>
TRANSACTION=OPRTL1BL 0000010PADEV00020SECOFR 082885
OUTQ=WILCOMMCHG/TESTQ
OUTLIB=WILCOMMCHG
OUTNAME=FAH
RECORDLEN=132
PRIORITY=
FILE=OPRTL1BL
FILENBR=000001
JOB=OPDEV0002
USER=OSECDFR
JOBNBR=082885
FORMTYPE=*STD
USRDTA=MSX046Z1
WCUSRDTA=
SPFDATE=20060801
SPFTIME=152323
STATUS=*READY
FILEAVL=*FILEEND
HOLD=*NO
SAVE=*NO
TOTPAG=000000001
STRPAG=000000001
ENCPAG=000000001
TOTALPAGES=000000001 0000001 0000001
SIPOLLNBR=S0006055
SERVICECODE=WF
SPECIFICCODE=TT
LANGCODE=JPN
: <ATTRIBUTESEND>
    
```

青枠部 は、スプールファイル本体です。<DATA>から<DATAEND>まで。

緑枠部 は、スプールファイルの属性項目です。赤線部は監視対象 OUTQ : WILCOMMCHG/TESTQ の名称及び、その作成時に指定したスペシフィック・コードです。
 <ATTRIBUTES>から<ATTRIBUTESEND>まで

Distribution Wizard の「セクション」における要素を考えておきましょう。

① **条件 - 1 どのようなスプールファイル进行处理するのか？**

使用できるスプールファイル属性：**緑枠部**

ライブラリーリストのスプールファイルは、必ずスプールファイル名が「QPRTLIBL」です。

監視対象 OUTQ： WILCOMMCHG/TESTQ で処理されたスプールファイルのスペシフィック・コードは必ず「TT」です。（赤下線部）

② **条件 - 2 どのようなスプールデータを含んでいる場合に処理するのか？**

① の条件指定だけで十分にライブラリーリストのスプールファイルを他のスプールファイルと区別することは可能かも知れません。

ここでは練習ですので、現実的ではありませんが以下の条件も追加してみることにしましょう。

前ページの図中の**黒枠部**には「WILCOMM」と印字されています。ここではスプールデータのこの部分に「WILCOMM」と印字されている場合に限り処理をするという条件設定することになります。

言い換えれば、この部分に「WILCOMM」と印字されていない場合のライブラリーリストのスプールファイルは配信させない設定ということになります。

③ **どのような方法で配信するのか？**

FAX or Mail or Print or File

④ **何処へ配信するのか？**

FAX=電話番号、Mail=メールアドレス、Print=プリンター名、File=保管先パスを Distribution Wizard のサービス設定で指定します。

⑤ **どのオーバーレイ・フォームを使用するか？**

STD132 という名称のオーバーレイ・フォームがデフォルトで用意されています。

このフォームは、ホスト上で横 132 桁／縦 6 6 行のスプールファイルをそのままのイメージで A 4 出力するためのフォームです。

ライブラリーリストのスプールファイルは、横 132 桁／縦 6 6 行のスプールファイルですので、このフォームを使用することしましょう。

次のページからは、実際に Distribution Wizard にどのようにして設定していくかの手順を説明します。

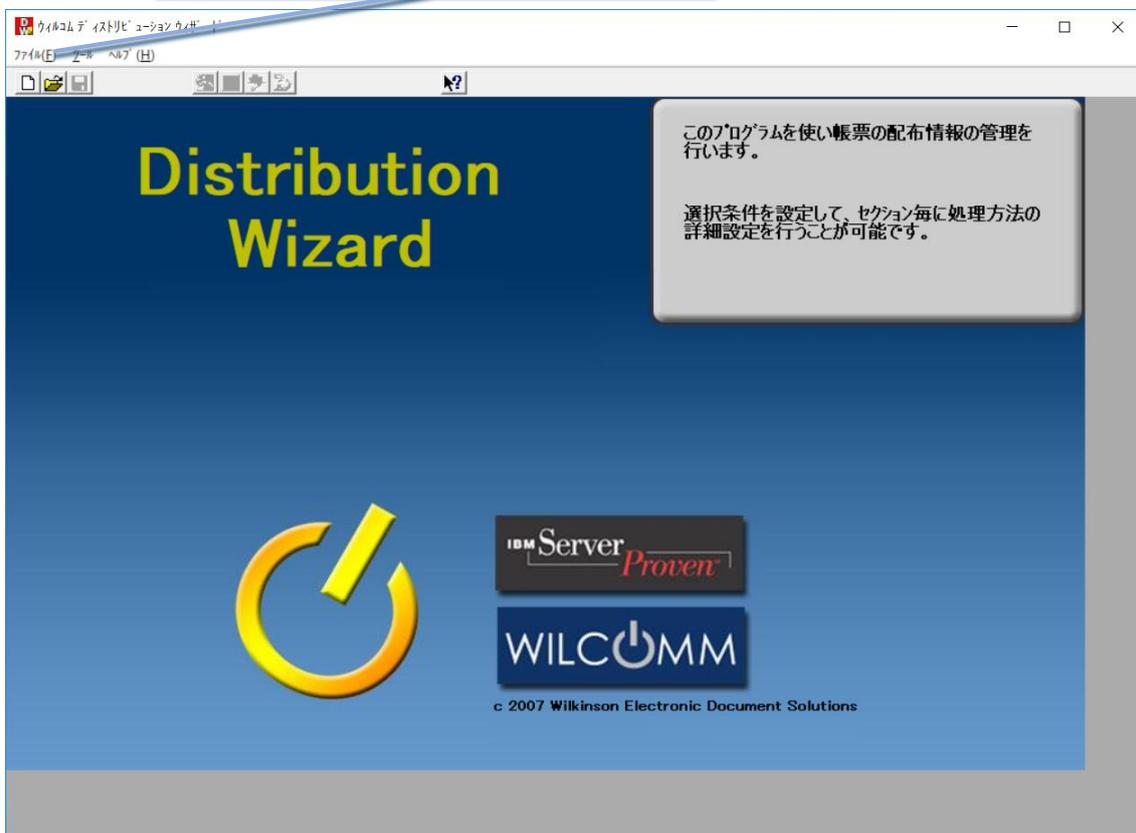
5. 配信定義作成(Distribution Wizard)

Distribution Wizard (ディストリビューション・ウィザード)

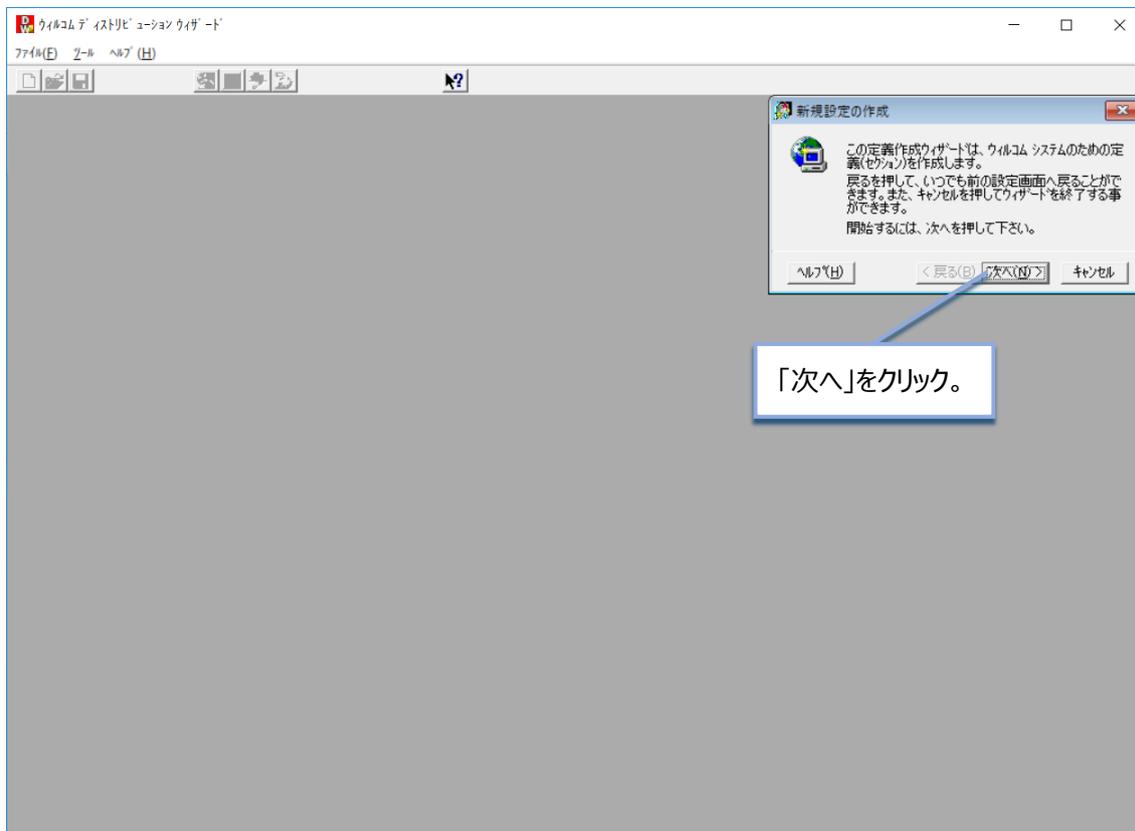
配信計画をもとに、実際に配信定義を作成します。

1. デスクトップ上のフォルダー「WilComm」を開き、Distribution Wizard を起動します。

「ファイル」→「新規作成」の順にクリックします。



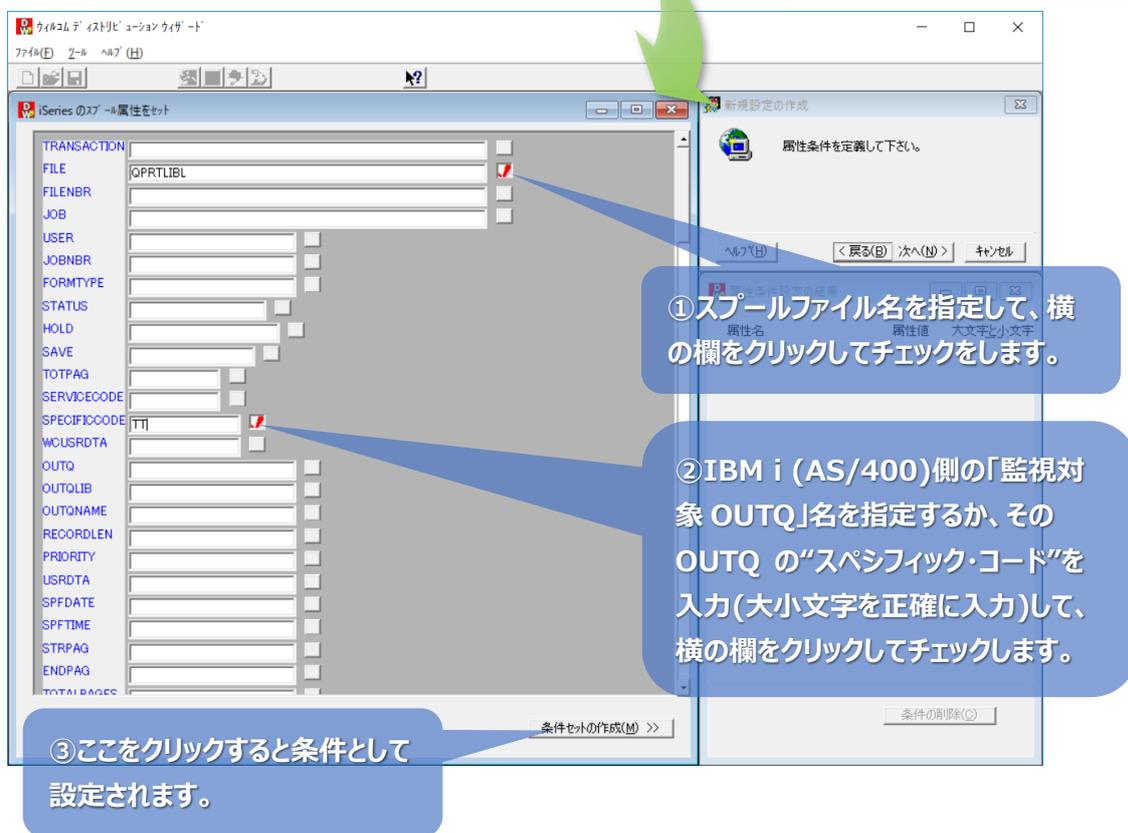
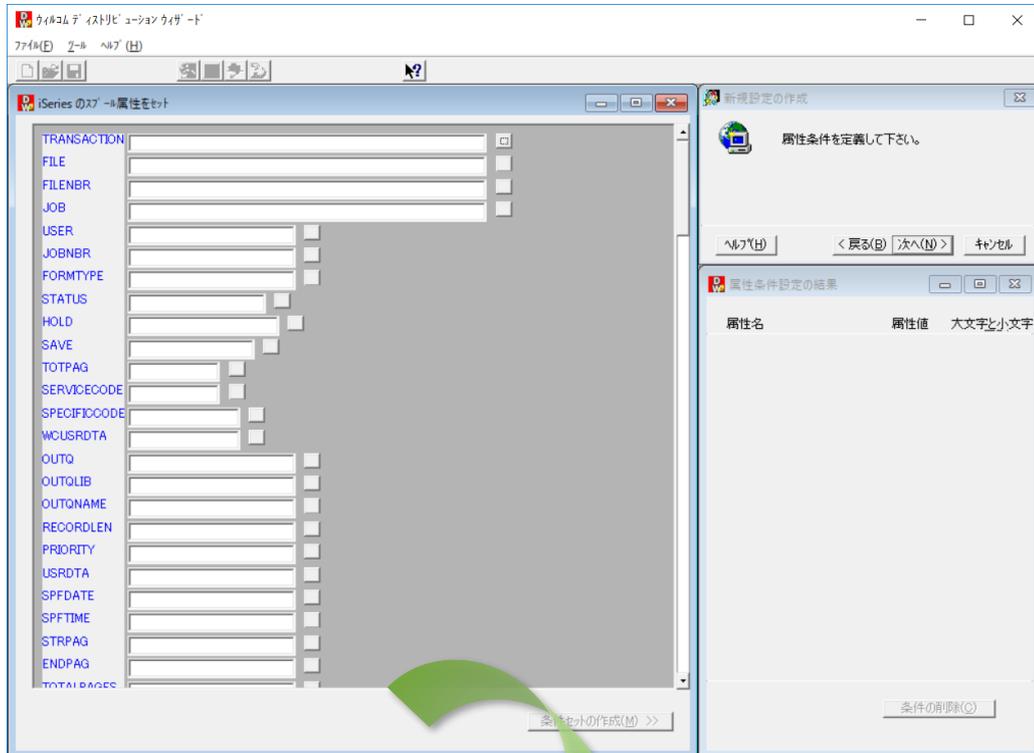
2. 次の画面が表示されたら、「次へ」をクリックして下さい。

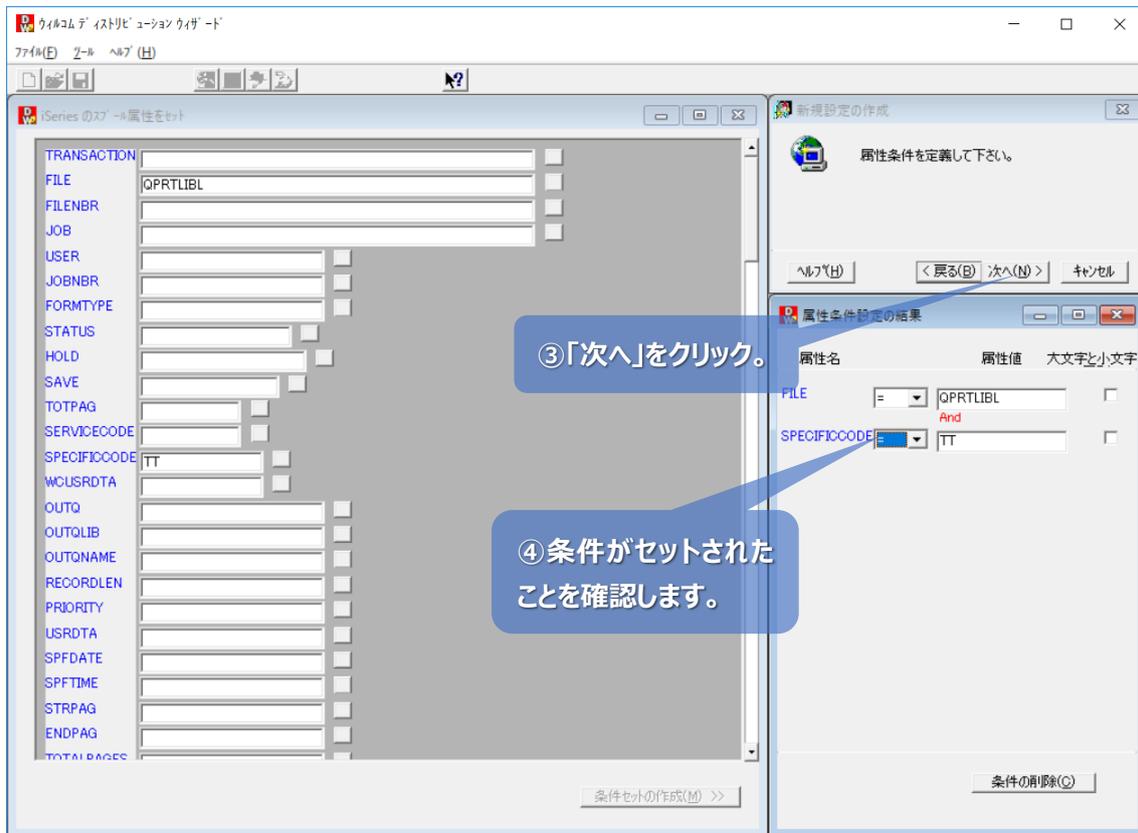


3. 次の画面が表示されます。

スプールファイルの属性項目を使用した条件付けを行います。

配信計画の①で決定したスプールファイル名とスペシフィック・コードで条件設定を行います。





スプールファイル名が「QPRTLIBL」で且つ、監視対象 OUTQ「WILCOMMCHG/TESTQ」を使用した場合に配信する条件設定ができました。

ここでは、And 条件が使用されていますが、Or 条件を使用することも可能です。

Or 条件にしたい場合は、①→③→②→③の順で設定を繰り返してください。

スプールファイルの属性での条件付けは、一般的に以下の項目がよく使用されます。

FILE：スプールファイル名

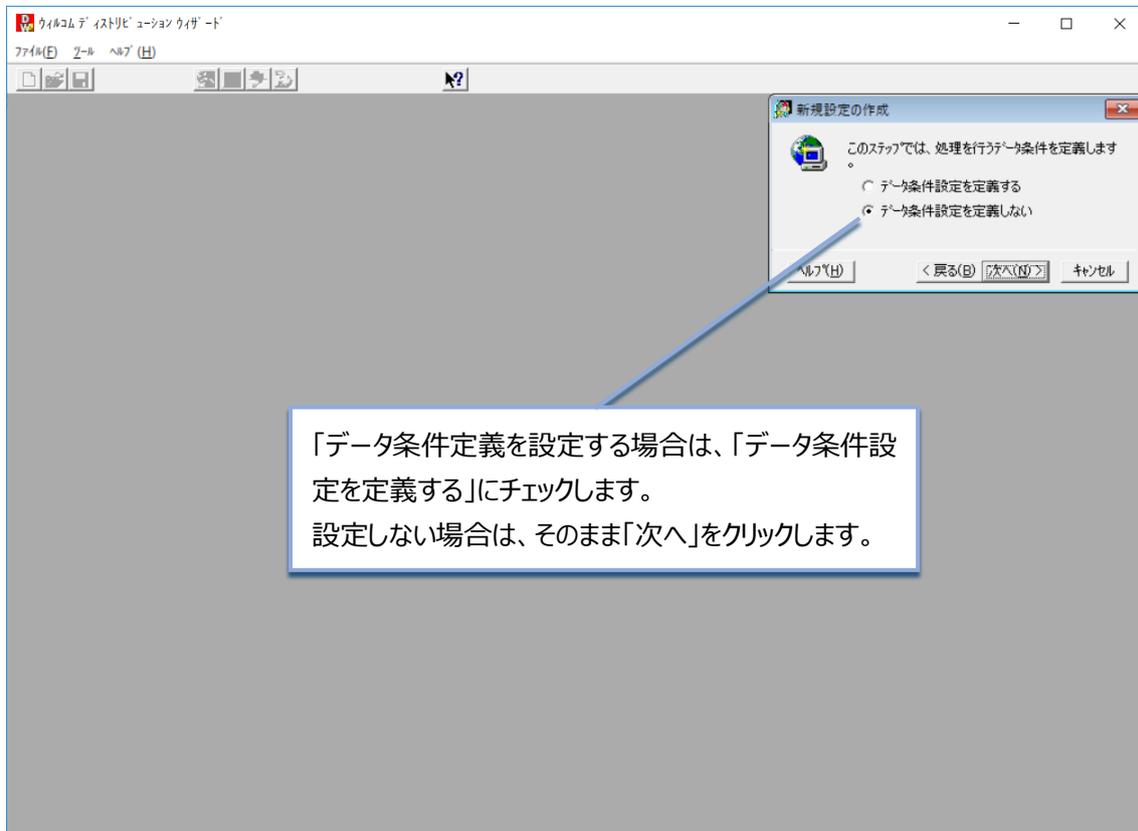
FORMTYPE：用紙タイプ

WCUSERDTA：ユーザーデータ

どのように条件付けしていくかによって、ホスト側アプリケーションを修正して、スプールファイルの属性項目ウィルコム用の識別 ID を設定する必要があるかもしれません。

4. 次の画面では、実際のスプールデータの値によって条件付けを行います。

配信計画②で決定した「WILCOMM」という文字列がある場合に限って処理するように条件付けを行ってみましょう。



ここでの条件付けは、スプールファイルの属性項目だけでは条件付けが限定できない場合や、同じスプールデータ内でもページ毎に配信方法が違う場合に使用します。

(例) 100ページの請求書(宛先100箇所)の自動配信

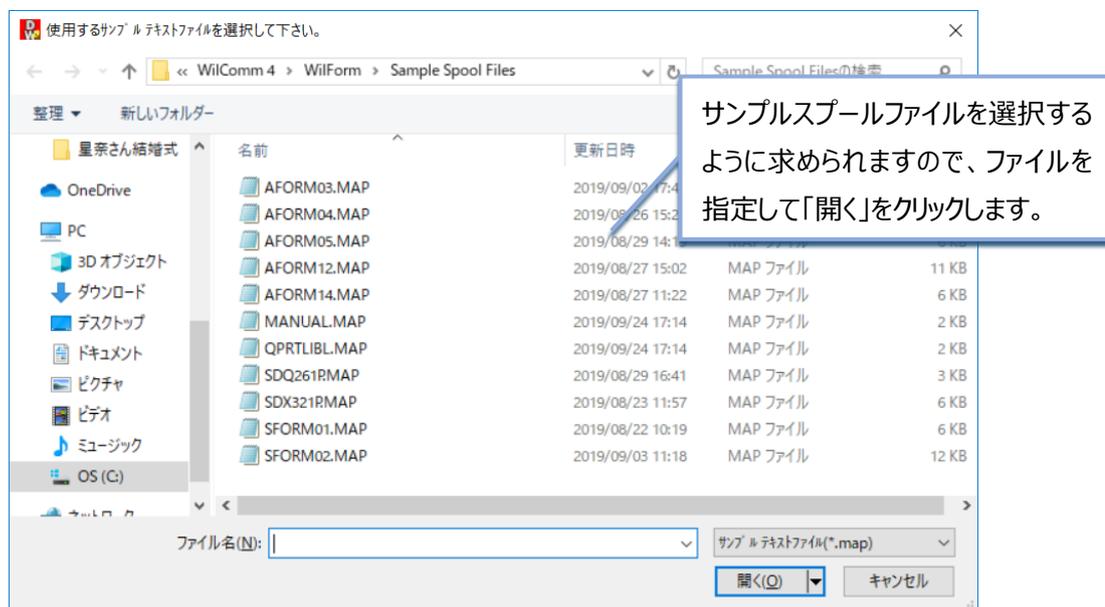
取引先毎にFAX配信する取引先とMail配信する取引先が混在している。

各ページにFAX配信するのか、Mail配信するのかを識別する文字列が印字されている場合。

スプールファイル属性は、スプールファイル単位にしか識別できない情報ですが、スプールデータを条件付けに使用すれば、スプールファイル内の各ページ単位の制御が可能になります。

場合によっては、既存アプリケーションを改訂してページ単位の制御を行うための識別IDを印字する必要がでてくるかも知れません。

(注) 上記画面で「データ条件設定を定義する」を選択すると以下の画面が表示されます。



ライブラリーリスト・スプールファイルのサンプルスプールファイルは、この時点ではありませんので、この中から選択することはできません。

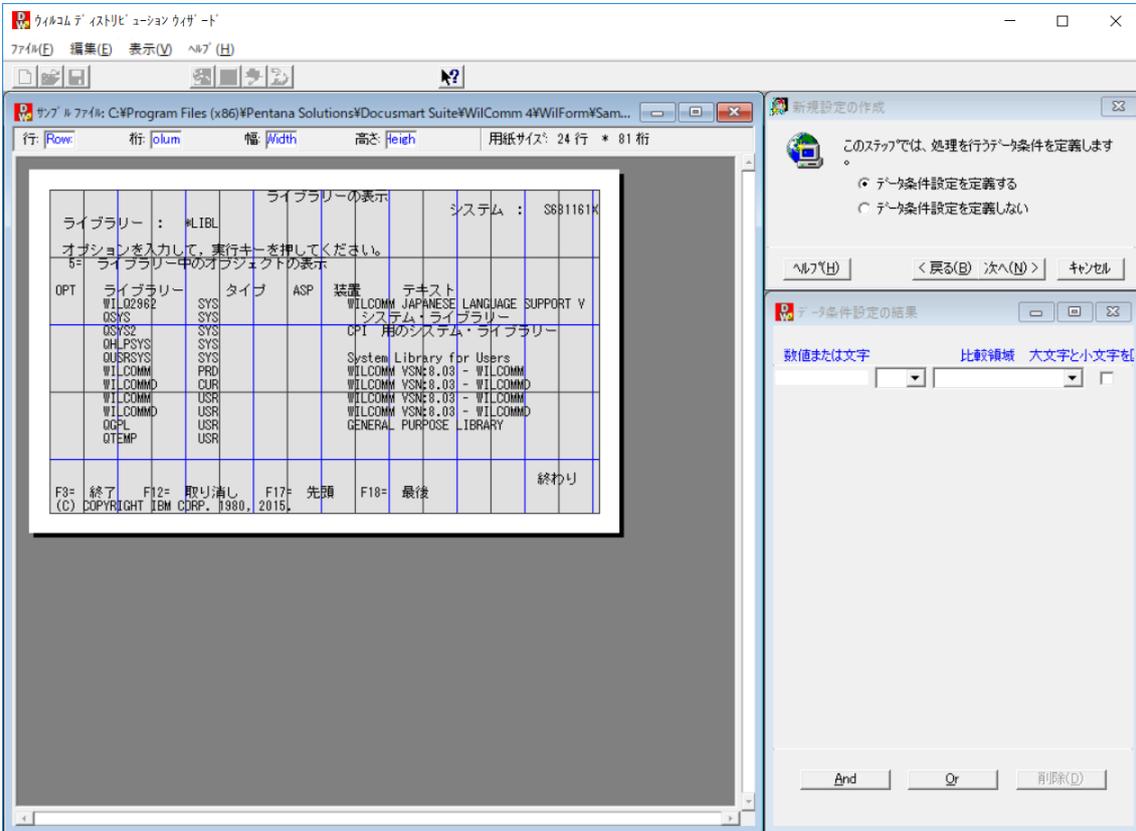
Distribution Wizard の設定は一旦ここで保留し、**ホスト** から**ライブラリーリスト・スプールファイル**のサンプルスプールファイルを **PC サーバー**に取り込むことにしましょう。

マニュアル「サンプルスプールファイルの作成」(AS0061)を参照して、**ライブラリーリスト・スプールファイル**のサンプルスプールファイルを取り込んでください。

取り込む際、サンプルスプールファイル名は「QPRTLIBL.」としましょう。

サンプルスプールファイルの取り込みが終了しましたら、上記ウィンドウから取り込んだ「QPRTLIBL.map」を選択して「開く」をクリックします。

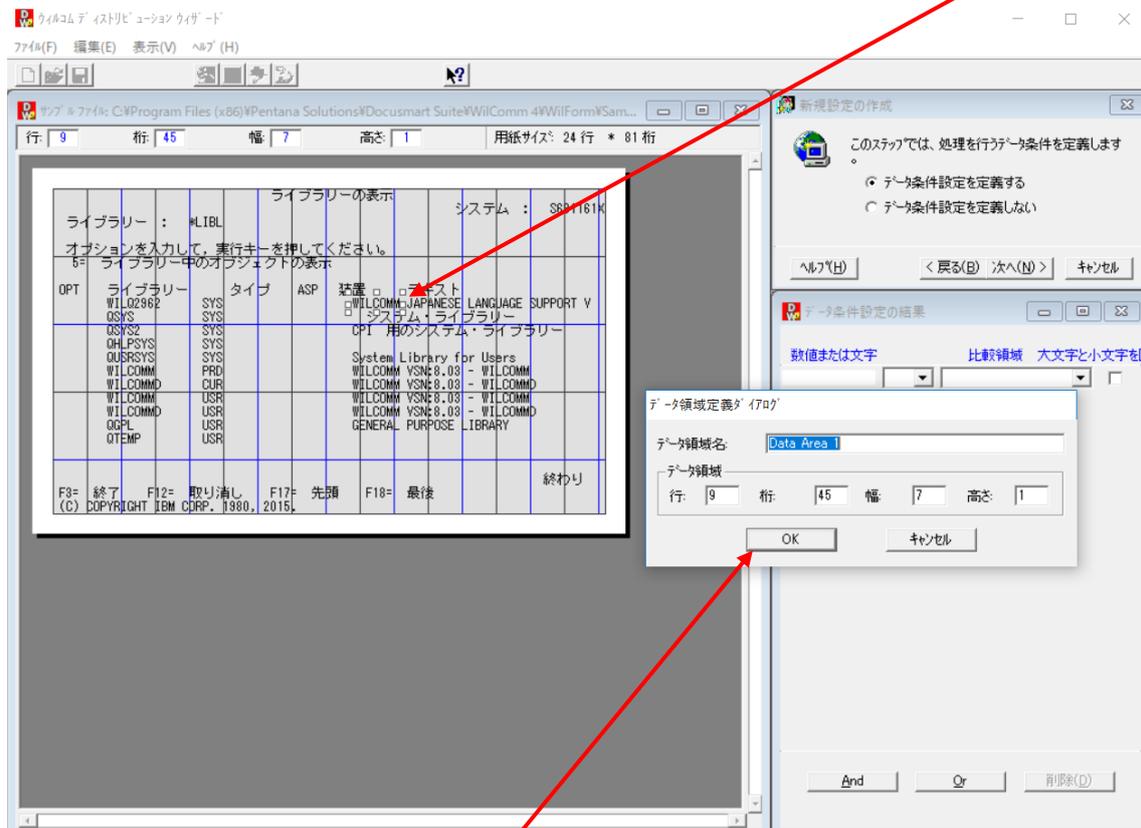
5. 「データ条件設定を定義する」画面が表示されます。



サンプルスプールファイルを PC サーバーに取り込む目的は、このようにスプールイメージを表示するためです。

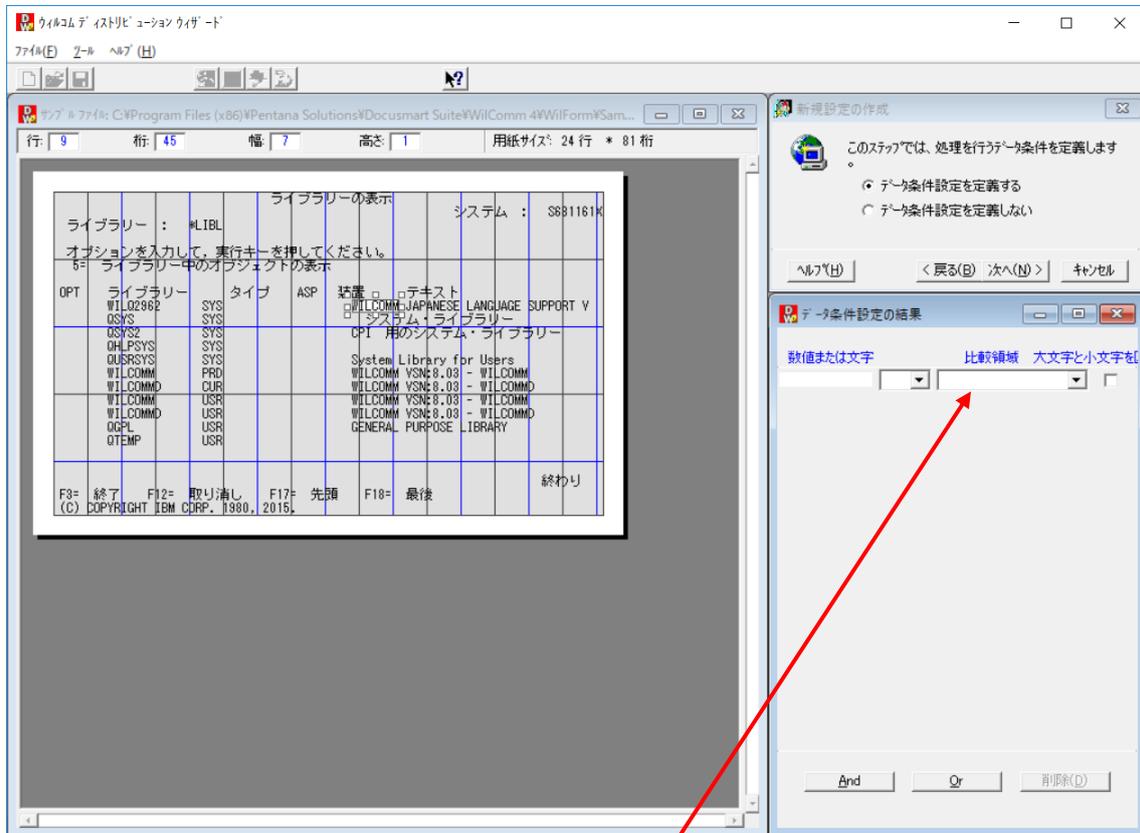
4. 配信計画の②で決定した「WILCOMM」という文字列が印字されている場合という条件付けを作成します。

まず、「WILCOMM」という文字列部分をサンプルスプールファイルが表示されているエリアで、マウスによりドラッグして囲むように選択します。

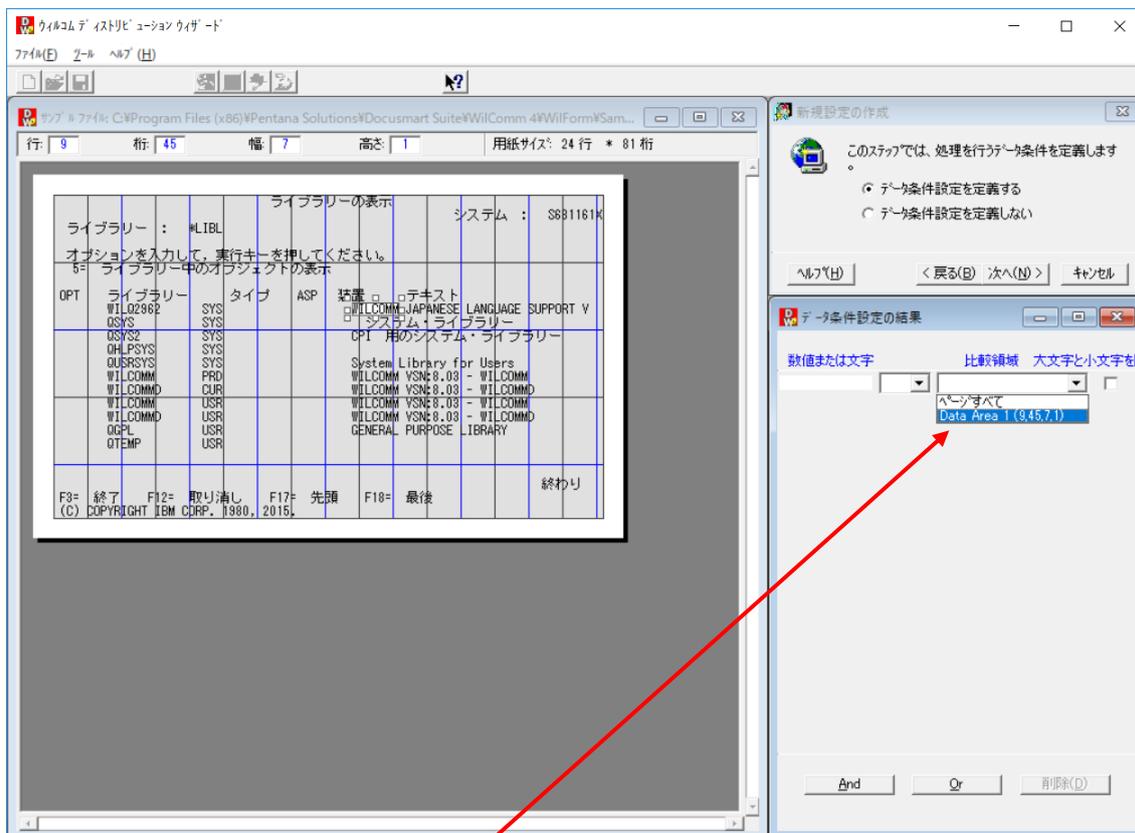


囲んだエリアの位置情報を示す「データ領域定義ダイアログ」が表示されます。データ領域名「Data Area 1」の名称は適当な名称に変更可能です。その他、「行・桁・幅・高さ」についても直接タイプして修正することが可能です。ここでは、このまま「OK」ボタンを押します。

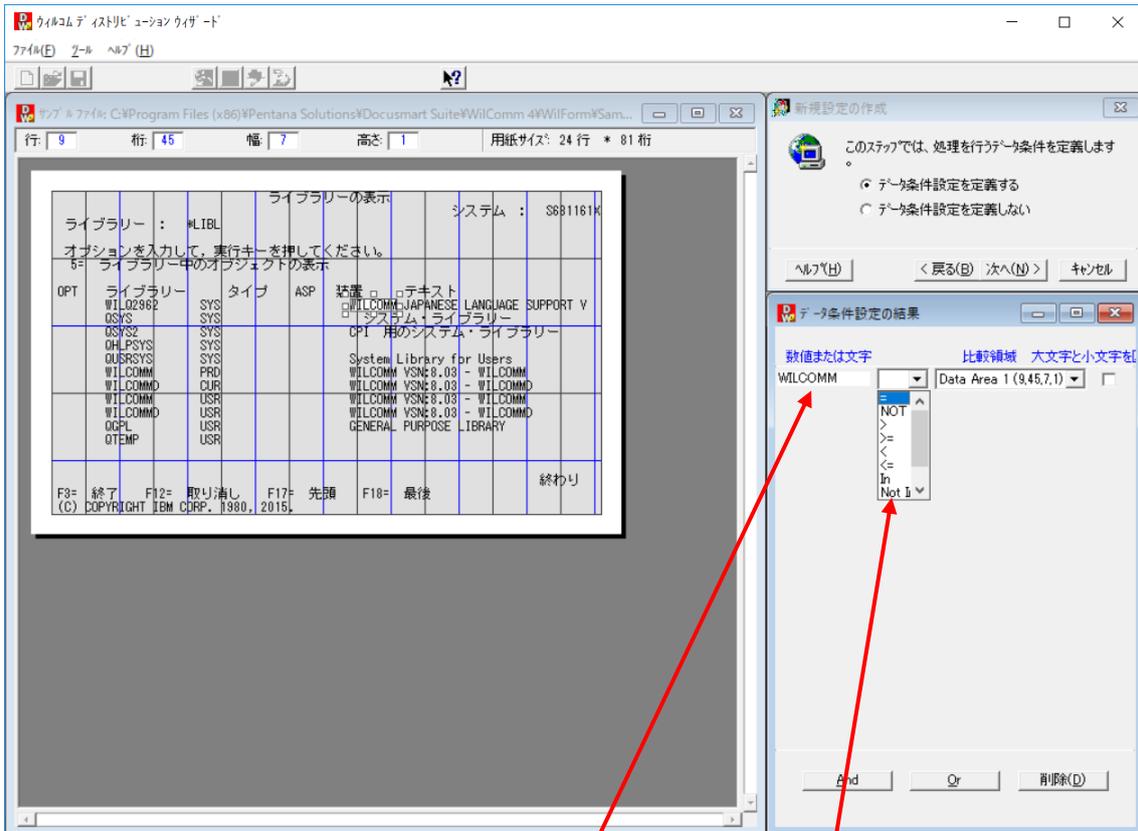
以下の状態になれば、どの位置の文字列を判断するのか領域が登録されました。



「Data Area 1」として登録した領域は、右側の「比較領域」に登録されています。



プルダウン・メニューから「Data Area 1」を選択します。



「数値または文字」欄に比較したい文字列「WILCOMM」と入力し、比較記号をプルダウン・メニューから選択します。

これで、「6 行目の 39 桁目から 7 バイト」の値が「WILCOMM」というデータ条件が設定できたことになります。

データ条件は複数指定することができます。右下の「And」「Or」ボタンを使用して、複数のデータ条件を連結することが可能です。

「次へ」ボタンを押します。

6. 次の画面で送信方法と送信する際のフォームを選択します。

① プリント出力の場合

「サービスの定義」で「印刷」を選択すると、以下の画面が表示されます。

右上にある優先順位の設定は、デフォルトのままとします。

短時間に大量の印刷データを受け取って、処理待ちのデータが大量に発生してしまっているような状況で、緊急度の高い印刷データを優先的に処理したい場合に、デフォルトより小さな値を指定します。

※優先順位の設定を使用する場合、マルチフォーム機能は利用できません

「全般」タブが選択されています。

The screenshot shows a dialog box titled "サービスの定義" (Service Definition). It contains the following fields and options:

- サービスの種類** (Service Type): 印刷 (Print)
- 優先順位** (Priority): 100
- 言語フィルター** (Language Filter): <<Default Language>>
- 全般** (General) tab is selected. Other tabs are アドレス (Address) and フォーム (Form).
- サービス プログラム** (Service Program): ウィルプリント サービス プログラム (Willprint Service Program)
- ファイルフォーマット** (File Format):
 - フォームにマージ (Merge into form)
 - テキスト (Text)
- 二重印刷** (Double Print):
 - シンプレックス (Simplex)
 - 水平 (Horizontal)
 - 垂直 (Vertical)
- コピー** (Copies):
 - 番号 (Number): 1
 - 部単位でコピー (Copy by section)
 - Use <COPIES>

「サービスプログラム」

デフォルトの「ウィルプリント サービス プログラム」のままにしてください。

「ファイルフォーマット」

「フォームにマージ」 オプション機能ウィルフォームズで作成したフォームにマージして印刷します。

「テキスト」 スプールファイルをテキストデータとして印刷します。

「二重印刷」

「シンプレックス」 片面印刷します。

「水平」 短辺とじて両面印刷します。

「垂直」 長辺とじて両面印刷します。

「コピー」

「番号」 印刷部数を指定します。

「部単位でコピー」 部単位で印刷します。

「Use <COPIES>」 印刷部数にスプールファイル属性項目のコピー(COPIES)を使用します。

※セクションの一覧でセクションを右クリックし、「ホストで指定されたアドレスを無視」にチェックが付いて選択されている必要があります。

「アドレス」タブ

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: 印刷 優先順位: 100

言語フィルター: <<Default Language>>

全般 | **アドレス** | フォーム

プリンター名の決定方法を選択して下さい:

- 事前定義プリンター名: []
- ホストで指定されたアドレス
- 定位置アドレス [詳細 ...]
- 浮動アドレス [詳細 ...]
- 検索アドレス [詳細 ...]

「事前定義プリンター名」

PC Server に設定されているプリンター名がリストに表示されますので、その中から対象のプリンター名を選択します。

「ホストで指定されたアドレス」

ホスト側で OUTQ とリンクしている「サブクラスパー」の値が使用されます。

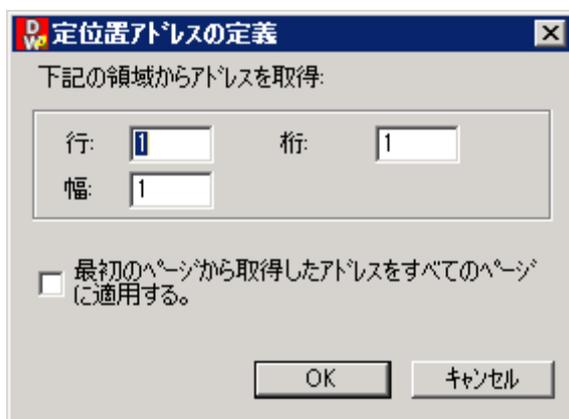
サブスクライバーの登録の際に、「サービスコード」=「WP」を指定してウィルプリントのプリンター名を指定していることが必要です。

サブスクライバーの登録などにつきましては、Training Manual Lesson-3 (iSeries 設定の基礎) TRN063.pdf を参照してください。

「定位置アドレス」

スプールデータの決められた位置に印字されている文字列を使用して、プリンター名を決定します。

「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。



文字列の存在する行、文字列の開始桁、文字列の幅を指定します。

「最初のページから取得したアドレスをすべてのページに適用する。」にチェックすると、先頭ページから取得したプリンター名が、スプールファイル全ページに適用されます。つまり、スプールファイルの全ページが同一のプリンターに印刷されることになります。

(例)

100 担当者に対する営業日報のスプールファイル 100 ページを担当者別に送信する場合。

(■ はシフトイン・アウト ■ はスペース)

“**■**営業部**■** P R I N T E R 1 _____ ” のようにスプールデータの各ページに担当者の最寄りのプリンター名を印字しておき、この部分を「定位置アドレス」として指定します。

ウィルプリントは 100 ページのスプールファイルを別々のプリンターに印刷します。

営業部**■**PRINTER1

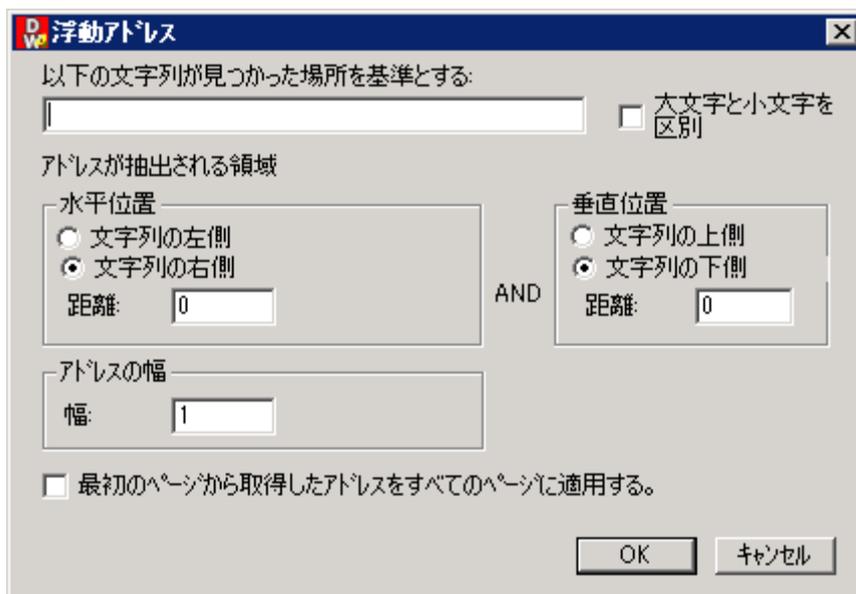
営業部**■**PRINTER2

経理部**■**PRINTER1

「浮動アドレス」

スプールデータに印字されている文字列を検索して、その文字列から見て上下左右の位置に印字されている文字列を使用してプリンター名を決定します。

「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。



ここでは以下の例に従って説明します。

(例)

プリンター名はスプールデータ内に印字されているが、位置はページ単位に異なる位置とする。プリンター名の前には必ず「PRNT」の文字列が印字されているとする場合。

■はシフトイン・アウト ■はスペース

“PRNT■営業部■P R I N T E R 1 _____”

このような場合、プリンター名の印字位置が確定していなくても「PRNT」の文字列をスプールデータ内で検索して、その文字列の右側にある文字列をプリンター名として使用することが可能です。

「以下の文字列が見つかった場所を基準とする」には、「PRNT」と入力します。

プリンター名の印字位置が「PRNT」という文字列と、どのような位置関係にあるかを指定します。

「水平位置」で「文字列の右側」を選択します。この場合、「距離」は 5 となります。

「距離」は検索した「PRNT」という文字列の先頭文字の位置を起点とし、何バイト目の位置からプリンター名が印字されているかを示しています。

「PRNT」の「P」の左側にカーソルを合わせて、右に 1 バイトずつカウントしながらスライドさせた場合、5 バイト目が実際のプリンター名の開始位置であることを示しています。

「**垂直位置**」は同一行にありますので、「文字列の上側」「文字列の下側」のどちらを選択しても「距離=0」であることを示しています。

「**アドレスの幅**」は、実際にプリンター名が印字されている文字列の幅を指定してください。

結果、「営業部■PRINTER1」が印刷先になります。

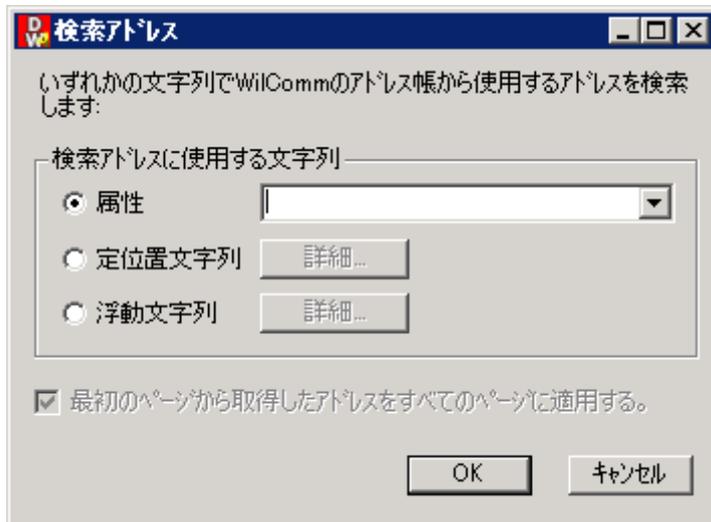
「最初のページから取得したアドレスをすべてのページに適用する」は「**定位置アドレス**」の場合と同様です。

「**検索アドレス**」

スプールファイルの属性やスプールデータに印字されている文字列を検索キーとしてウィルコムアドレス帳を検索し、アドレス帳に登録されている「プリンター名」から印刷先を取得します。

※**アドレス帳の設定につきましては「6.補足：アドレス帳の設定」を参照してください。**

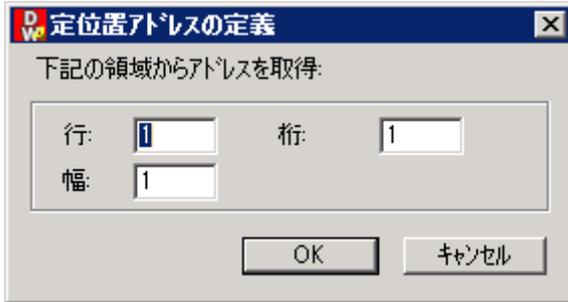
「詳細」ボタンを押して、検索値を指定します。



「**属性**」はスプールファイルの属性にセットされている文字列を使用して、検索キーを決定します。指定できるスプールファイル属性は、Distribution Wizard の属性条件設定で利用できる属性名と同様です。

「**定位置文字列**」はスプールデータの決められた位置に印字されている文字列を検索キーとします。

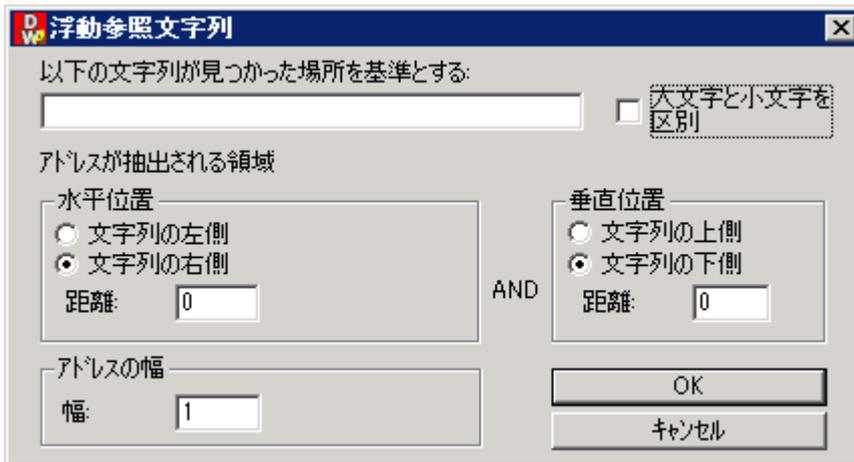
「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。



指定方法は前述の「**定位置アドレス**」と同様です。

「**浮動文字列**」はスプールデータに印字されている文字列を検索して、その文字列から見て上下左右の位置に印字されている文字列を検索キーとします。

「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。



指定方法は前述の「**浮動アドレス**」と同様です。

「最初のページから取得したアドレスをすべてのページに適用する」は「**定位置アドレス**」の場合と同様です。

「フォーム」タブ

全般タブで、「フォームにマージ」にチェックを付けた場合に、指定を行います。

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: 印刷 優先順位: 100

言語フィルター: <<Default Language>>

全般 | アドレス | **フォーム**

フォーム名: フォーム名を選択してください

フィールド マップ名: フィールドマップ名を選択してください

解像度: 中

ページ区切りフィールド:

データのみ

使用する「フォーム」と「マッピング定義」を指定してください。

解像度のデフォルトは「中」です。

「ドラフト」は、罫線などが印字されない場合がありますので、選択しないでください。

ページ区切りフィールドは、通常は何も指定しません

1つの帳票を複数に分割して処理を行いたいような場合に、ページ区切りフィールドにフォームの変数を指定する事で、その変数の値が変わったページの前までを1つの処理単位として実行する事ができます。

データのみは、通常チェックを付けません

データだけにチェックを付けた場合、出力結果は文字のみとなります。

フォームでデザインされた罫線などの情報は印刷されません

ダブルバイト文字に関する注意事項

ダブルバイトを使用したスプールデータの文字列やスプールファイル属性を、プリンター名に使用する場合、ホスト上のシフトイン/アウトの処理上、若干の制限がございます。

Windows 環境ではプリンターのネーミングルールとして、名前の途中スペースが認められています。

(例： DocuCentre-IV C2260)

ウィルコムは、ホスト上のシフトイン/アウトを全てスペースに置き換えて PC Server にデータを受け渡します。その関係で、例えばダブルバイト文字とシングルバイト文字を混在させた文字列を使用した場合にシフトイン/アウトが置き換わったスペースなのか、故意に指定したスペースなのかを PC Server 側ウィルコムは判断することが出来ません。

(■はシフトイン・アウト ■はスペース)

ホスト上の以下の文字列をプリンター名に使用した場合、

■営業所■PRINTER1

PC Server 上のプリンター名は、

営業所■PRINTER1 (営業所 PRINTER1 とはなりません)

ウィルコムは PC Server 側で印刷した結果をホストに返しています。ホストのメッセージリストには、上記プリンター名がアップロードされます。

その際、ダブルバイト文字にはシフトイン/アウトが自動的に付加されますので、上記 PC Server での結果がホストにアップロードされた場合、ホストのメッセージリストには、以下のプリンター名が返されます。

■営業所■PRINTER1

ここで、メッセージリストからの再送信を実行すると、PC Server 側には以下のプリンター名が渡されてしまいます。

営業所■PRINTER1

途中スペースは 2 バイトになり、PC サーバー上では別名プリンターとして認識されてしまいます。

以上のことから、**プリンター名を決定する際にホスト上のダブルバイト文字列を使用することはお勧めできません。**

②メール送信の場合

「サービスの定義」で「**Eメール**」を選択すると、以下の画面が表示されます。

右上にある優先順位の設定は、デフォルトのままとします。

短時間に大量の印刷データを受け取って、処理待ちのデータが大量に発生してしまっているような状況で、緊急度の高い印刷データを優先的に処理したい場合に、デフォルトより小さな値を指定します。

※優先順位の設定を使用する場合、マルチフォーム機能は利用できません

「**全般**」タブが選択されています。

The screenshot shows a dialog box titled "サービスの定義" (Service Definition). It contains the following elements:

- A message: "このセクションで使用するサービスを選択して下さい。" (Please select the service to use in this section.)
- "サービスの種類" (Service Type): Eメール (selected)
- "優先順位:" (Priority): 100
- "言語フィルター" (Language Filter): <<Default Language>>
- Navigation tabs: PDF, 機密保護, ファイル名, 添付ファイル, Excel / CSV, 全般 (selected), メール メッセージ, アドレス, CC_BCC, フォーム
- "Eメールの形式" (Email Format) section:
 - 送信ファイルをメール本文として送信 (Selected)
 - 送信ファイルをテキストファイルの添付として送信
 - 送信ファイルをウイルフォームスでマージして、PDFの添付ファイルとして送信
 - ホストスクリプト ファイルをPDFに変換し、PDFの添付ファイルとして送信
 - ページテキストとExcel テンプレートをマージしてExcelあるいはCSVファイルに出力
 - 送信ファイルをウイルフォームスでマージして、XDWの添付ファイルとして送信
- "サービス プログラム:" (Service Program): ウイルメール サービス プログラム (selected)

「Eメールの形式」

このセクションで添付ファイルの形式を指定します。

「送信ファイルをメール本文として送信」

スプールファイルをテキストデータとしてメール本文に挿入します。

「送信ファイルをテキストファイルの添付として送信」

テキスト形式のファイルが作成されます。

… 「**ファイル名**」タブが有効になります。

「送信ファイルをウィルフォームズでマージして、PDF の添付ファイルとし送信」

オプション機能ウィルフォームズで作成したフォームにスプールファイルをマージします。

PDF 形式のファイルが作成されます。

… 「フォーム」「PDF」「機密保護」「ファイル名」タブが有効になります。

「ポストスクリプトファイルを PDF に変換し、PDF の添付ファイルとして送信」

※当オプションのサポートは終了しているため、他のオプションを使用してください。

「ページテキストと Excel テンプレートをマージして Excel あるいは CSV ファイルに出力」

オプション機能スプレッドシートビルダーと Excel が必要です。

Excel 形式または、CSV 形式のファイルが作成されます。

… 「機密保護」「ファイル名」「Excel / CSV」タブが有効になります。

「送信ファイルをウィルフォームズでマージして、XDW の添付ファイルとして送信」

Xerox のドキュワークスをインストールする必要があります。

オプション機能ウィルフォームズで作成したフォームにスプールファイルをマージします。

XDW 形式(ドキュワークス)のファイルが作成されます。

… 「フォーム」「PDF」「機密保護」「ファイル名」タブが有効になります。

「サービスプログラム」

デフォルトの「ウィルメール サービス プログラム」のままにしてください。

「メール メッセージ」タブ

The screenshot shows a software configuration window titled "サービスの定義" (Service Definition). It contains several fields and tabs. The "サービスの種類" (Service Type) is set to "Eメール" (Email) and "優先順位" (Priority) is 100. The "言語フィルター" (Language Filter) is set to "<<Default Language>>". There are tabs for "PDF", "機密保護" (Security), "ファイル名" (File Name), "添付ファイル" (Attachments), and "Excel / CSV". Underneath, there are sub-tabs for "全般" (General), "メール メッセージ" (Email Message), "アドレス" (Address), "CC_BCC", and "フォーム" (Form). The "メール メッセージ" tab is active, showing a "件名:" (Subject) text box and a "メッセージ:" (Message) text area. At the bottom, there is a checkbox labeled "トランザクションの最初のページメッセージテキストが含まれます。" (Include message text on the first page of the transaction). To the right of the main form is a large empty box and an "Add Variable" button.

「件名」

送信される E メール「件名」を記入します。(75 バイト程度が適当です。)

「メッセージ」

送信される E メール「本文」を記入します。

「トランザクションの最初のページメッセージテキストが含まれます。」

スプールファイルの最初のページから取得したデータを使用します。

※ウィルフォームズのマージを行うファイル形式を選択した時、「フォーム」タブで選択したフォームに含まれる変数が右側のエリアに表示されます。

変数を選択して「Add Variable」ボタンを押すと、件名、メッセージに変数を埋め込むことができますので、スプールファイルに印字されているデータをメールの本文・件名に設定する事が可能です。

注意：この機能は PDF 添付や Excel (Spreadsheet Builder 使用) 添付の場合のみ有効です。

(設定例)

↓ メール送信

【デモサンプル】 お見積書の送付 N°SAMPLE-01

WilCommデモ <koide@fairdinkum.co.jp>
To KOIDE ▾

ペンタナソリューションズ様

ウィルコムのごデモンストレーション・メールをお送りいたします。
添付ファイルは、見積書のサンプルです。

「アドレス」タブ

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: Eメール 優先順位: 100

言語フィルター: <<Default Language>>

PDF | 機密保護 | ファイル名 | 添付ファイル | Excel / CSV

全般 | メール メッセージ | **アドレス** | CC_BCC | フォーム

宛先

ホストで指定されたアドレス 定位置アドレス

浮動アドレス 検索アドレス

送信者

名前: Default

メールボックス: Default

ドメイン: Default

Reply To: Default

「宛先」

このセクションで Eメールの宛先となるメールアドレスを指定します。

「ホストで指定されたアドレス」

ホスト側で OUTQ とリンクしている「サブスライバー」の値が使用されます。

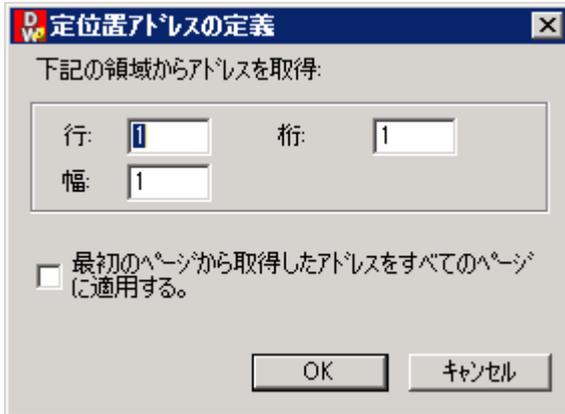
サブスライバーの登録の際に、「サービスコード」=「WM」を指定してウィルメールの送信先を指定していることが必要です。

サブスライバーの登録などにつきましては、Training Manual Lesson-3 (iSeries 設定の基礎) TRN063.pdf を参照してください。

「定位置アドレス」

スプールデータの決められた位置に印字されている文字列を使用して、送信先を決定します。

「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。



文字列の存在する行、文字列の開始桁、文字列の幅を指定します。

「最初のページから取得したアドレスをすべてのページに適用する。」にチェックすると、先頭ページから取得した送信先が、スプールファイル全ページに適用されます。つまり、スプールファイルの全ページが同一のメールアドレスに送信されることになります。

(例)

100 取引先に対する注文書のスプールファイル 100 ページを取引先別に送信したい場合。

“aaaa@xxx.co.jp _____” のようにスプールデータの各ページに取引先毎に送信先となるメールアドレスを印字しておき、この部分を「定位置アドレス」として指定します。

ウィルメールは 100 ページのスプールファイルを別々のメールアドレスに送信します。

aaaa@xxx.co.jp

bbbb@yyy.co.jp

cccc@zzz.com

「浮動アドレス」

スプールデータに印字されている文字列を検索して、その文字列から見て上下左右の位置に印字されている文字列を使用して送信先を決定します。

「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。

ここでは以下の例に従って説明します。

(例)

メールアドレスはスプールデータ内に印字されているが、位置はページ単位に異なる位置とする。メールアドレスの前には必ず「MAIL」の文字列が印字されているとする場合。

■はスペース

“MAIL■aaaa@xxx.co.jp _____”

このような場合、メールアドレスの印字位置が確定していなくても「MAIL」の文字列をスプールデータ内で検索して、その文字列の右側にある文字列をメールアドレスとして使用することが可能です。

「以下の文字列が見つかった場所を基準とする」には、「MAIL」と入力します。

メールアドレスの印字位置が「MAIL」という文字列と、どのような位置関係にあるかを指定します。

「水平位置」で「文字列の右側」を選択します。この場合、「距離」は 5 となります。

「距離」は検索した「MAIL」という文字列の先頭文字の位置を起点とし、何バイト目の位置からメールアドレスが印字されているかを示しています。

「MAIL」の“M”の左側にカーソルを合わせて、右に 1 バイトずつカウントしながらスライドさせた場合、5 バイト目が実際のメールアドレスの開始位置であることを示しています。

「**垂直位置**」は同一行にありますので、「文字列の上側」「文字列の下側」のどちらを選択しても「距離=0」であることを示しています。

「**アドレスの幅**」は、実際にメールアドレスが印字されている文字列の幅を指定してください。
結果、「aaaa@xxx.co.jp」がメールの送信先になります。

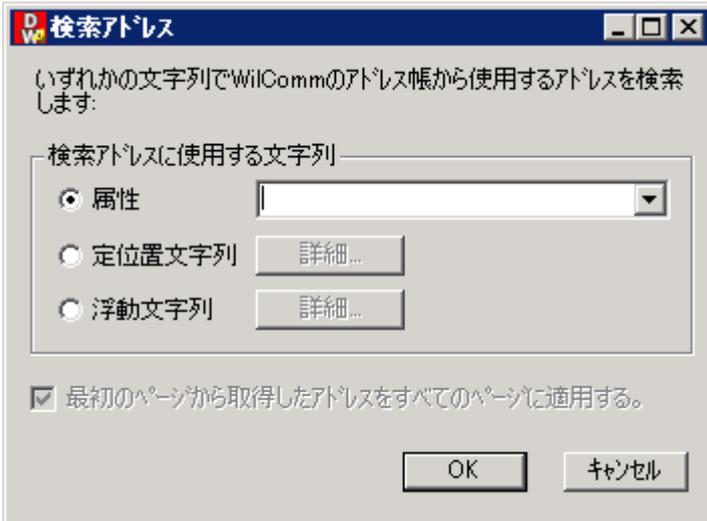
「最初のページから取得したアドレスをすべてのページに適用する」は「**定位置アドレス**」の場合と同様です。

「検索アドレス」

スプールファイルの属性やスプールデータに印字されている文字列を検索キーとしてウィルコムアドレス帳を検索し、アドレス帳に登録されている「Eメール アドレス」から送信先を取得します。

※アドレス帳の設定につきましては「6.補足：アドレス帳の設定」を参照してください。

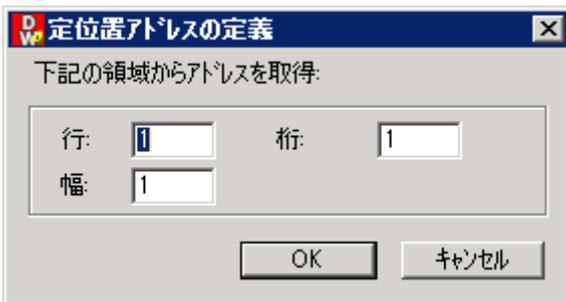
「詳細」ボタンを押して、検索値を指定します。



「属性」はスプールファイルの属性にセットされている文字列を使用して、検索キーを決定します。指定できるスプールファイル属性は、Distribution Wizard の属性条件設定で利用できる属性名と同様です。

「定位置文字列」はスプールデータの決められた位置に印字されている文字列を検索キーとします。

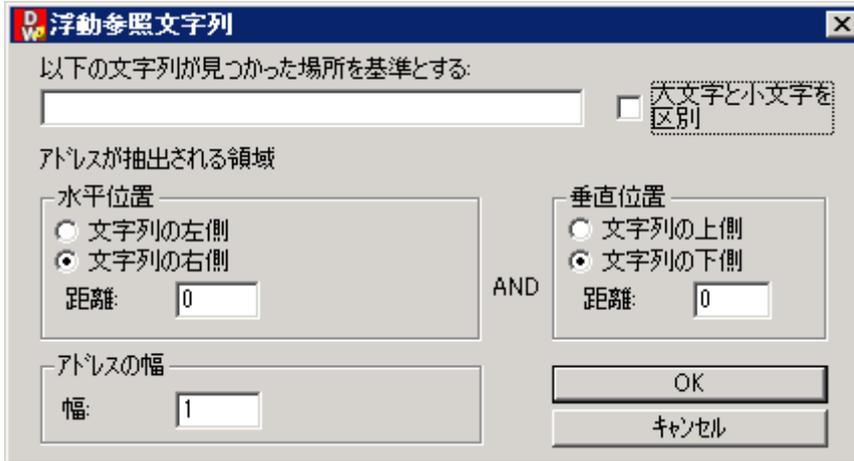
「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。



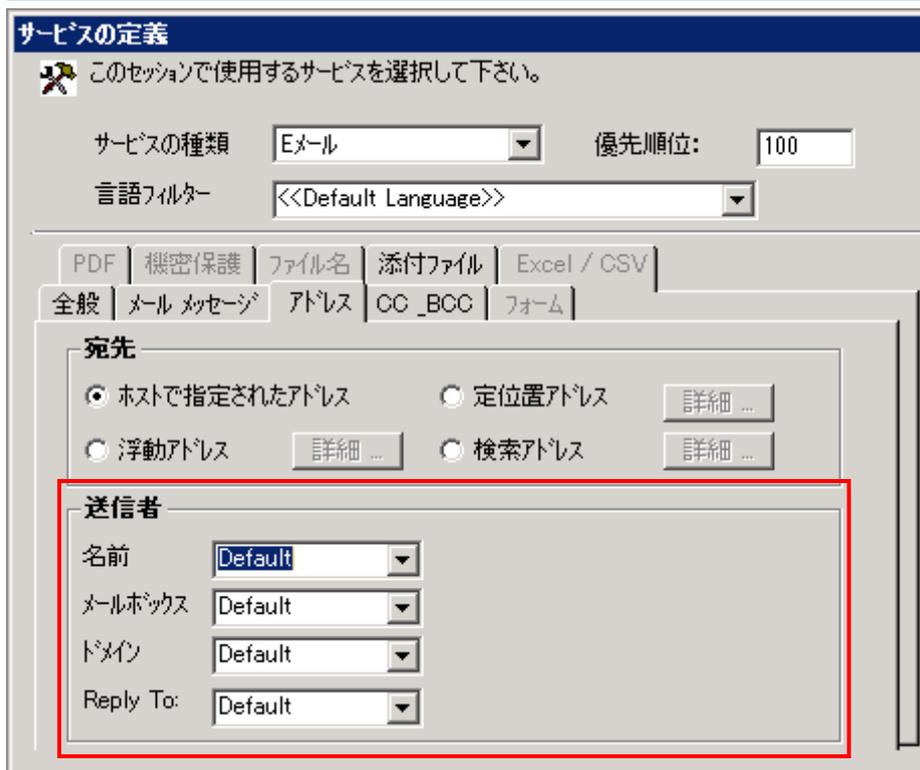
指定方法は前述の「定位置アドレス」と同様です。

「**浮動文字列**」はスプールデータに印字されている文字列を検索して、その文字列から見て上下左右の位置に印字されている文字列を検索キーとします。

「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。



指定方法は前述の「**浮動アドレス**」と同様です。



「送信者」

このセクションで E メールを送信者となるメールアドレスを指定します。

指定できる内容には以下のものがあります。

- 「名前」 送信者の名前
- 「メールボックス」 メールアドレスの“@”の左側
- 「ドメイン」 メールアドレスの“@”の右側
- 「Reply To」 メールの返信先

それぞれ、Default / Constant / Fixed が選択できます。

Default…………… ウィルコム コンフィグレーションの「E メール ユーザー」の送信者が使用されます。

Constant…………… テキストボックスに固定値を指定します。



Fixed…………… 「Details」ボタンを押して定位置アドレスを指定します。



「CC _BCC」タブ

The screenshot shows the 'Service Definition' dialog box with the 'CC_BCC' tab selected. The dialog has a title bar 'サービスの定義' and a message: 'このセッションで使用するサービスを選択して下さい。' Below this, there are fields for 'サービスの種類' (set to 'Eメール'), '優先順位' (set to '100'), and '言語フィルター' (set to '<<Default Language>>'). A tabbed interface at the bottom includes 'PDF', '機密保護', 'ファイル名', '添付ファイル', 'Excel / CSV', '全般', 'メール メッセージ', 'アドレス', 'CC_BCC', and 'フォーム'. The 'CC_BCC' tab is active, showing two sections labeled '宛先'. The first section, 'CC宛先を使う', has a checked checkbox and four radio button options: 'ホストで指定されたアドレス', '定位置アドレス', '浮動アドレス', and '検索アドレス'. Each radio button has a '詳細...' button next to it. The second section, 'BCC宛先を使う', also has a checked checkbox and the same four radio button options with '詳細...' buttons.

「宛先」

CC アドレスや BCC アドレスを使用する場合、それぞれのチェックボックスにチェックを付けます。
アドレスの指定方法は、前述の「アドレス」タブの「宛先」と同様です。

「ファイル名」タブ

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: Eメール 優先順位: 1000

言語フィルター: <<Default Language>>

全般 | メール メッセージ | アドレス | CC_BCC | フォーム

PDF | 機密保護 | **ファイル名** | 添付ファイル | Excel / CSV

既存のファイル名を使用

事前定義ファイル名:

定位置アドレス 浮動アドレス

コンベネーション・アドレス

式の作成

属性アドレス

ここでは、生成される添付ファイルのファイル名を指定します。

ファイル名に、「¥ / : * ? " < > |」の文字は、半角全角にかかわらず使用できません。半角「¥」マークは、フォルダーの区切り文字として認識されます。ファイル名の末尾に、.pdf などのファイル拡張子を付けないでください。

「既存のファイル名を使用」

ウィルコムが内部的に管理している処理番号がファイル名として使用されます。

“S0000000” ~ “S9999999” の範囲で自動的に決定されます。

「事前定義ファイル名」

静的にファイル名を指定することができます。

「定位置アドレス」

スプールデータの決められた位置に印字されている文字列を使用して、ファイル名を決定します。

「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。

定位置アドレスの定義

下記の領域からアドレスを取得:

行: 1 桁: 1

幅: 1

最初のページから取得したアドレスをすべてのページに適用する。

OK キャンセル

指定方法は前述の「定位置アドレス」と同様です。

「浮動アドレス」

スプールデータに印字されている文字列を検索して、その文字列から見て上下左右の位置に印字されている文字列を使用してファイル名を決定します。

「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。

浮動アドレス

以下の文字列が見つかった場所を基準とする:

大文字と小文字を区別

アドレスが抽出される領域

水平位置

文字列の左側

文字列の右側

距離: 0

AND

垂直位置

文字列の上側

文字列の下側

距離: 0

アドレスの幅

幅: 1

最初のページから取得したアドレスをすべてのページに適用する。

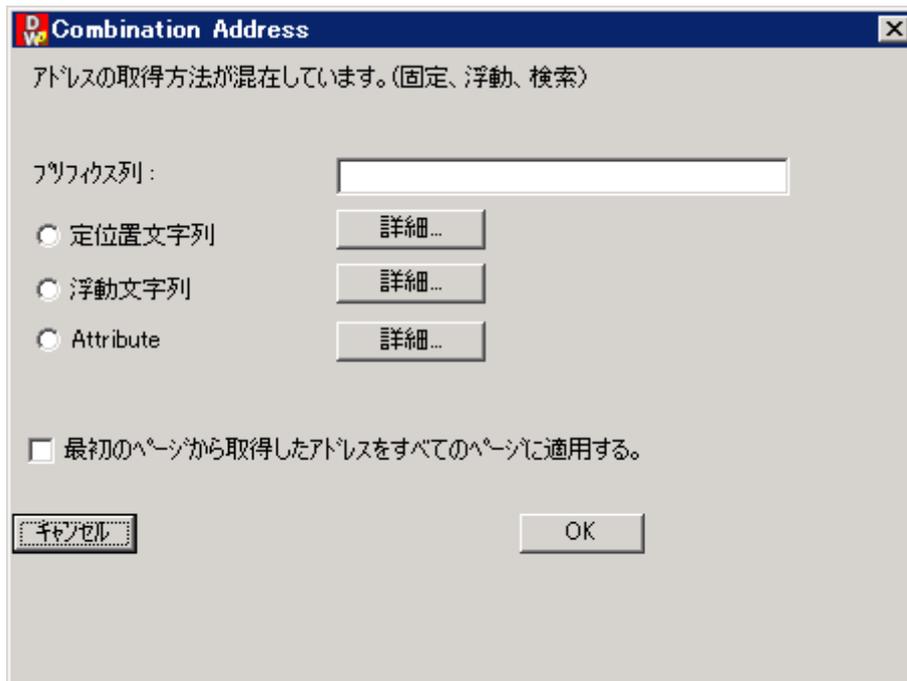
OK キャンセル

指定方法は前述の「浮動アドレス」と同様です。

「コンビネーション・アドレス」

これは、「固定文字列」と「定位置アドレス」、「浮動アドレス」、「属性アドレス」いずれかを組み合わせた設定となり、静的に指定した文字列にスプールデータ内に印字されている文字列を連結してファイル名を決定します。

「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。



「プリフィクス列」に静的な文字列を指定して、「定位置文字列」あるいは「浮動文字列」、「Attribute」の設定によりスプールデータ内の文字列を連結させて、ファイル名を決定します。

「式の作成」

固定の文字列や、帳票に印字されている文字列、帳票の属性にセットされている値などを自由に組み合わせてファイル名を指定できる機能です。

「詳細」ボタンを押して、設定を行います。



固定の文字を使用する場合、式という欄に、直接文字列をタイプします。

帳票に印字されている文字列を利用したい場合は、定位置または浮動を使用して設定を行います。

スプールファイルの属性にセットされている値（ユーザー名など）を利用したい場合は、属性を使用して設定を行います。

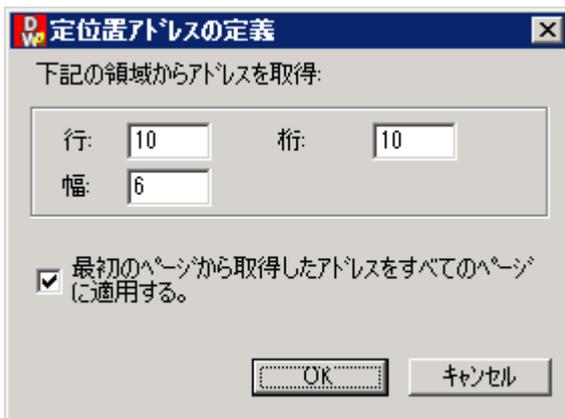
（例）

「注文番号 999999_YYYYMMDD」のように、“注文番号”という文字列の後ろに帳票に印字されている注文番号をセットし、アンダーラインを挟んで、帳票の印字日付をセットしたい場合。

「式」に「注文番号」と入力します。



スプール内で「123456」のように注文番号が印字されている領域を「定位置」で指定します。
 例えば、10行目の10桁目から999999と印字されていた場合、定位置の詳細ボタンをクリックして以下のように指定します。



注文番号の右側にアンダーラインを入力します。



帳票の印字日付を取得するため、属性の右側にある詳細ボタンをクリックし、SPFDATE を選択して OK ボタンをクリックします。



この場合の結果は、以下ようになります。

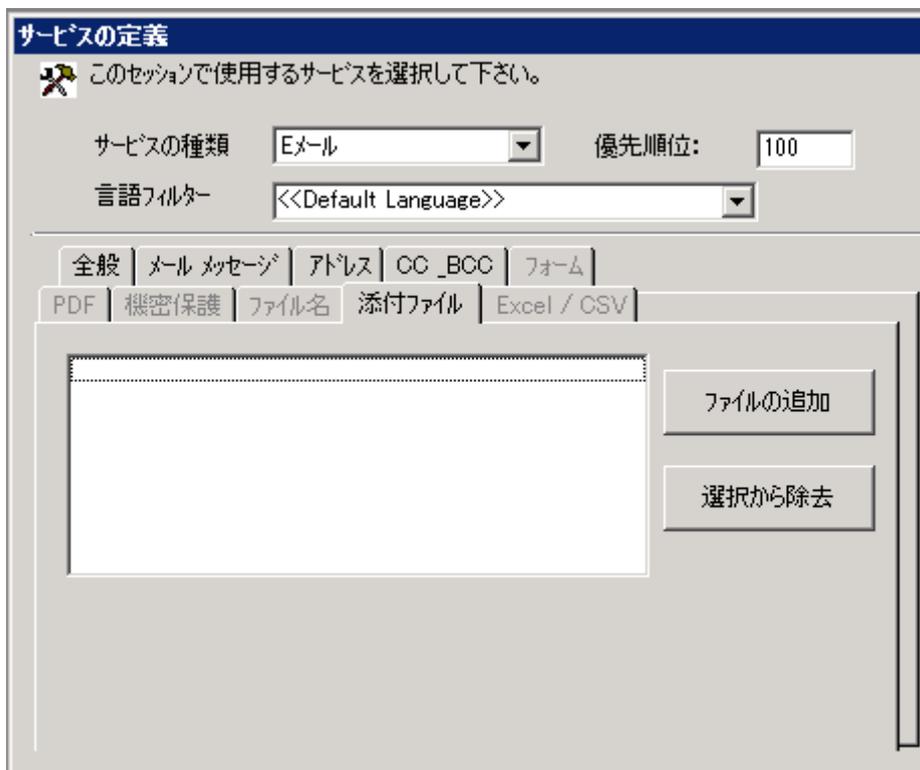
注文番号 123456_20190301

「属性アドレス」

スプールファイルの属性にセットされている文字列を使用して、ファイル名を決定します。指定できるスプールファイル属性は、Distribution Wizard の動作条件設定と同様です。

スプールファイル属性項目の内、アプリケーション側で自由に設定が可能なのは、用紙タイプ (FORMTYPE)やユーザーデータ(WCUSRDTA)等かも知れません。

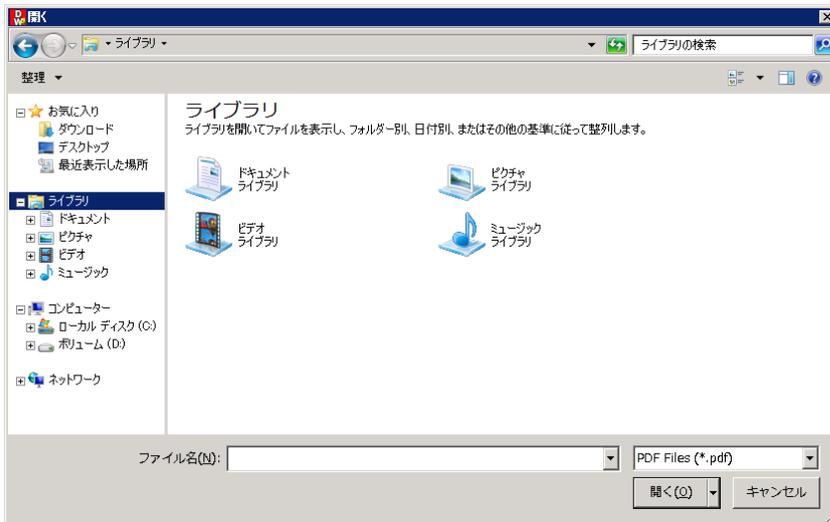
「添付ファイル」タブ



ウィルメールが作成する添付ファイルの他に、必ず添付しておきたいファイルがあれば、ここで指定をしておきます。

「ファイルの追加」ボタンを押します。

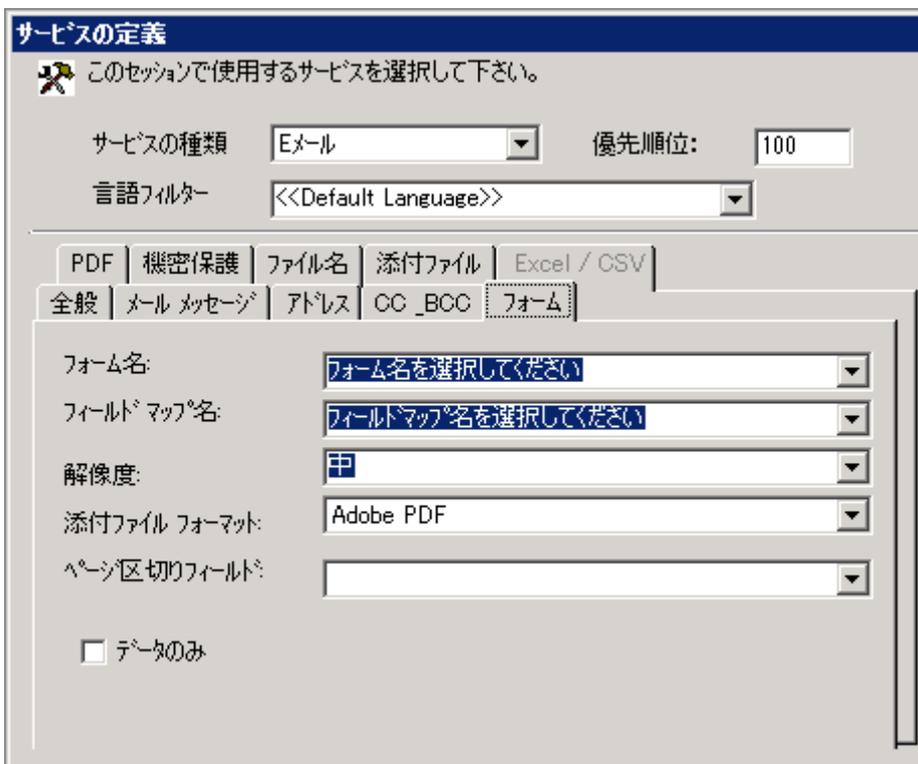
表示されるダイアログボックスを利用して、添付ファイルを選択しリストに追加します。



不必要なファイルをリストから削除するには、ファイルを選択して「選択から除去」ボタンを押します。

「フォーム」タブ

全般タブで、「送信ファイルをウィルフォームズでマージして、PDF の添付ファイルとして送信」または「送信ファイルをウィルフォームズでマージして、XDW の添付ファイルとして送信」にチェックを付けた場合に、指定を行います。



使用する「フォーム」と「マッピング定義」を指定してください。

解像度のデフォルトは「中」です。

「ドラフト」は、罫線などが印字されない場合がありますので、選択しないでください。

ページ区切りフィールドは、通常は何も指定しません。

1つの帳票を複数に分割して処理を行いたいような場合に、ページ区切りフィールドにフォームの変数を指定する事で、その変数の値が変わったページの前までを1つの処理単位として実行する事ができます。

データのみは、通常チェックを付けません。

データのみチェックを付けた場合、出力結果は文字のみとなります。

フォームでデザインされた罫線などの情報は印刷されません。

「PDF」タブ

The screenshot shows a dialog box titled "サービスの定義" (Service Definition). At the top, it says "このセッションで使用するサービスを選択して下さい。" (Please select the service to use in this session.). Below this, there are two dropdown menus: "サービスの種類" (Service Type) set to "Eメール" (Email) and "言語フィルター" (Language Filter) set to "<<Default Language>>". To the right of the "サービスの種類" dropdown is a text box for "優先順位:" (Priority) with the value "100". Below these are several tabs: "全般" (General), "メール メッセージ" (Email Message), "アドレス" (Address), "CC_BCC" (CC_BCC), "フォーム" (Form), "PDF" (selected), "機密保護" (Security), "ファイル名" (File Name), "添付ファイル" (Attachments), and "Excel / CSV". The "PDF" tab is active, showing a section titled "フォント組み込みオプション" (Font Embedding Options) with four radio button options: "ウィルコムで事前定義されている埋め込み方法を利用" (Use the embedding method predefined by Willcom), "フォントを埋め込まない(システムフォントを利用)" (Do not embed fonts (use system fonts)), "サブセットフォントを埋め込む。" (Embed subset fonts.), and "全てのフォントを埋め込む。" (Embed all fonts.).

ここでは PDF 形式で保管する場合のフォントの埋め込み方法を指定します。

この設定は、デフォルトの「ウィルコムで事前定義されている埋め込み方法を利用」を選択してください。

「機密保護」タブ

作成される PDF または Excel のファイルにパスワードを付けたい場合に指定を行います。

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: Eメール 優先順位: 100

言語フィルター: <<Default Language>>

全般 | メール メッセージ | アドレス | CC_BCC | フォーム |

PDF | **機密保護** | ファイル名 | 添付ファイル | Excel / CSV

パスワードを使わない

パスワードの設定(半角のみ有効です)

事前定義パスワード

フォームの値を利用:

定位置アドレス

浮動アドレス

コンビネーションアドレス

パスワードを使用するには、「**パスワードを使わない**」のチェックをはずします。

「事前定義パスワード」

静的にパスワードを指定することができます。

「フォームの値を利用」

「フォーム」タブで選択されたフォームに設定されている変数を指定します。

変数にマッピングされて入っている値がパスワードとして使用されます。

※※※※※

1 つのスプールファイルの各ページによりパスワードを変える場合は、この設定を使用します。

※※※※※

「定位置アドレス」

スプールデータの決められた位置に印字されている文字列をパスワードとして使用します。

「アドレス詳細」ボタンを押して、印字位置を指定します。

チェックは外せない
仕様です。
必ず先頭ページの値が
パスワードになります。

指定方法は前述の「定位置アドレス」と同様です。

「浮動アドレス」

スプールデータに印字されている文字列を検索して、その文字列から見て上下左右の位置に印字されている文字列を使用してパスワードを決定します。

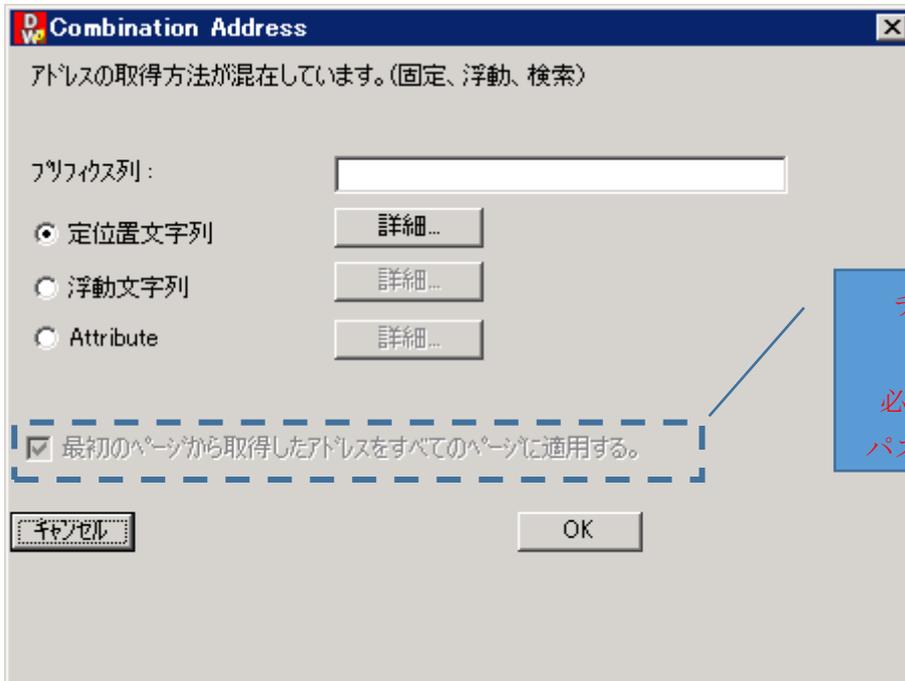
「アドレス詳細」ボタンを押して、位置を指定します。

チェックは外せない
仕様です。
必ず先頭ページの値が
パスワードになります。

指定方法は前述の「浮動アドレス」と同様です。

「コンビネーション・アドレス」

静的に指定した文字列とスプールデータ内に印字されている文字列を連結してパスワードを決定します。
「アドレス詳細」ボタンを押して、文字列を指定します。



チェックは外せない
仕様です。
必ず先頭ページの値が
パスワードになります。

指定方法は前述の「コンビネーション・アドレス」と同様です。

「Excel/CSV」タブ

全般タブで「ページテキストと Excel テンプレートをマージして Excel あるいは CSV ファイルに出力」にチェックを付けた場合に、指定を行います。

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: Eメール 優先順位: 100

言語フィルター: <<Default Language>>

全般 | メール メッセージ | アドレス | CC_BCC | フォーム

PDF | 機密保護 | ファイル名 | 添付ファイル | **Excel / CSV**

マージするファイルの選択

Excel: テンプレートを使わない

WXT ファイル: WXT ファイルを選択してください

スプレッドシートビルダーで作成した定義を WXT ファイルで選択します。
 スプレッドシートビルダーで作成される data シートのデータを使用して別のシートにグラフなどを表示するような指定を行ったテンプレートを用意している場合、Excel でそのテンプレートを選択します。

③FAX 送信の場合

「サービスの定義」で**FAX**を選択すると、以下の画面が表示されます。

右上にある優先順位の設定は、デフォルトのままとします。

短時間に大量の印刷データを受け取って、処理待ちのデータが大量に発生してしまっているような状況で、緊急度の高い印刷データを優先的に処理したい場合に、デフォルトより小さな値を指定します。

※優先順位の設定を使用する場合、マルチフォーム機能は利用できません

「全般」タブが選択されています。

The screenshot shows a dialog box titled "サービスの定義" (Service Definition). At the top, it says "このセッションで使用するサービスを選択して下さい。" (Please select the service to use in this session.). Below this, there are several fields: "サービスの種類" (Service Type) is a dropdown menu set to "FAX"; "優先順位:" (Priority) is a text box containing "100"; "言語フィルター" (Language Filter) is a dropdown menu set to "<<Default Language>>". Below these fields are several tabs: "全般" (General), "カバー ページ" (Cover Page), "アドレス" (Address), "フォーム" (Form), and "スケジュール" (Schedule). The "全般" tab is selected. Under the "全般" tab, there is a section for "FAXの形式" (FAX Format) with a radio button selected for "フォームにマージして FAX" (Merge into form and FAX). Below this is a dropdown menu for "サービス プログラム:" (Service Program) set to "ウィルファックス サービス プログラム" (WilFax Service Program).

「サービスプログラム」はデフォルトの「ウィルファックス サービス プログラム」のままにしてください。

「FAX の形式」

「フォームにマージして FAX」 にチェックします。

「カバー ページ」タブをクリックします。

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: FAX 優先順位: 100

言語フィルター: <<Default Language>>

全般 **カバー ページ** アドレス フォーム スケジュール

カバー ページ

件名: []

メッセージ: []

テンプレート: []

Add Variable

「カバー ページ」

ファックスにカバー ページ（表紙）を付けたい時にチェックします。

チェックを付けた場合、必ずテンプレートを指定してください。

※テンプレートはあらかじめ RightFax Express・RightFax へ管理者でログオンし、表紙に登録しておく必要があります。

本文をパラメータとして受け渡し、テンプレートに印刷する事ができます。

「件名」 件名を指定します。(使用できません)

「メッセージ」 本文のメッセージを指定します。

※本文は 30 行以内である必要があります。

30 行を超えた場合、RightFax Express・RightFax がエラーとなり、送信されません

「テンプレート」 使用するテンプレートの名前を指定します。

「アドレス」タブをクリックします。

The screenshot shows a dialog box titled "サービスの定義" (Service Definition). At the top, there is a message: "このセッションで使用するサービスを選択して下さい。" (Please select the service to use in this session.) Below this, there are two dropdown menus: "サービスの種類" (Service Type) set to "FAX" and "優先順位:" (Priority) set to "100". There is also a "言語フィルター" (Language Filter) dropdown set to "<<Default Language>>". Below these are four tabs: "全般" (General), "カバー ページ" (Cover Page), "アドレス" (Address), "フォーム" (Form), and "スケジュール" (Schedule). The "アドレス" tab is selected. Inside this tab, there is a section titled "アドレスの決定方法を選択して下さい:" (Please select the address determination method:). It contains four radio button options: "ホストで指定されたアドレス" (Address specified on the host), "定位置アドレス" (Fixed address), "浮動アドレス" (Floating address), and "検索アドレス" (Search address). Each of the last three options has a "詳細 ..." (Details ...) button next to it.

「ホストで指定されたアドレス」

ホスト側で OUTQ とリンクしている「サブクラスパー」の値が使用されます。

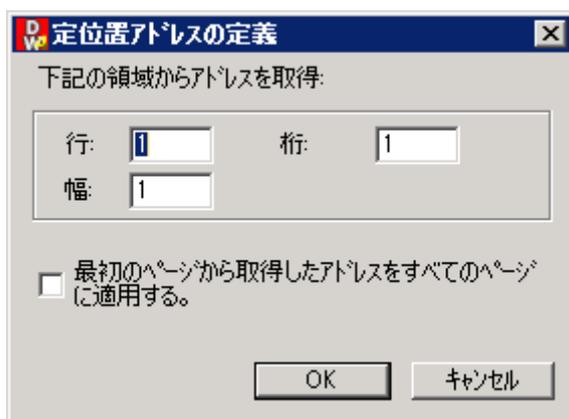
サブスクライバーの登録の際に、「サービスコード」=「WF」を指定してファックス番号の登録を行っていることが必要です。

サブスクライバーの登録などにつきましては、Training Manual Lesson-3 (iSeries 設定の基礎) TRN063.pdf を参照してください。

「定位置アドレス」

スプールデータの決められた位置に印字されている文字列を使用して、ファックス番号を決定します。

「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。



文字列の存在する行、文字列の開始桁、文字列の幅を指定します。

「最初のページから取得したアドレスをすべてのページに適用する。」にチェックすると、先頭ページから取得したファックス番号が、スプールファイル全ページに適用されます。つまり、スプールファイルの全ページが同一のファックス番号に送信されることになります。

(例：)

100 取引先に対する注文書のスプールファイル 100 ページを取引先別に送信する。

“03-0000-0000 _____” のようにスプールデータの各ページに取引先のファックス番号を印字しておき、この部分を「定位置アドレス」として指定します。

ウィルファックスは 100 ページのスプールファイルを別々のファックス番号に送信します。

03-0000-0000

052-000-0000

06-0000-0000

・
・
・

「浮動アドレス」

スプールデータに印字されている文字列を検索して、その文字列から見て上下左右の位置に印字されている文字列を使用して FAX 番号を決定します。

「以下の文字列が見つかった場所を基準とする」という項目に、検索したい文字列を入力します。

入力された文字列が印字されている場所を見つけ、その上下左右のどこに FAX 番号が印字されているかを「水平位置」、「垂直位置」、「アドレスの幅」で指定します。

ここでは以下の例に従って説明します。

(例：)

ファックス番号はスプールデータ内に印字されているが、位置はページ単位に異なる位置とする。ただしその場合、ファックス番号の前には必ず「FAX#」の文字列が印字されているとする。

(■はスペース)

“FAX# ■03-0000-0000 _____”

このような場合、ファックス番号の印字位置が確定していなくとも「FAX#」の文字列をスプールデータ内に検索して、その文字列の右側にある文字列をファックス番号として使用することが可能です。

「以下の文字列が見つかった場所を基準とする」には、「FAX#」と入力します。

ファックス番号の印字位置が「FAX#」という文字列と、どのような位置関係にあるかを指定します。

「水平位置」で「文字列の右側」を選択します。この場合、「距離」は 5 となります。

「距離」は検索した「FAX#」という文字列の先頭文字の位置を起点とし、何バイト目の位置から FAX 番号が印刷されているかを示しています。

「FAX#」の「F」にカーソルを合わせて、右に 1 バイトずつカウントしながらスライドさせた場合、5 バイト目が実際のファックス番号の開始位置となります。

「垂直位置」は同一行にありますので、「文字列の上側」「文字列の下側」のどちらを選択しても「距離=0」となります。

「**アドレスの幅**」は、実際にファックス番号が印刷されている文字列の幅を指定してください。
※スペースなどは無視されますので、印字される FAX 番号の最大桁数を指定してください。

上記設定の結果、「03-0000-0000」という送信先の FAX 番号が取得されます。

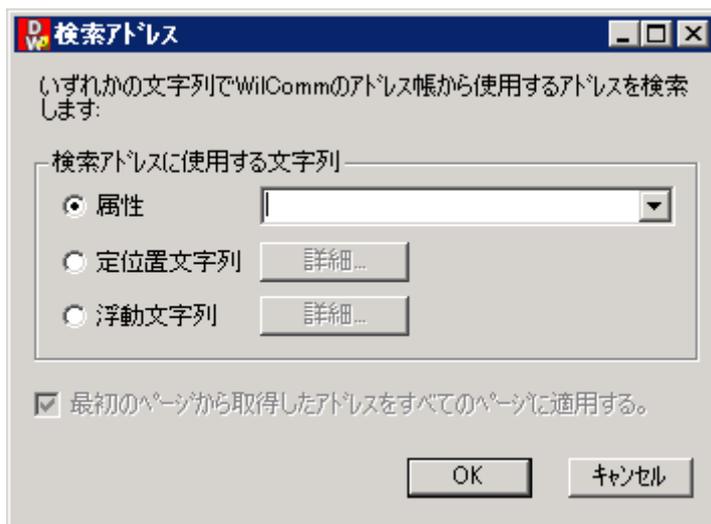
「最初のページから取得したアドレスをすべてのページに適用する」は「**定位置アドレス**」と同様です。

「**検索アドレス**」

スプールファイルの属性やスプールデータに印字されている文字列を検索キーとしてウィルコムアドレス帳を検索し、アドレス帳に登録されている「FAX 番号」から送信先を取得します。

※**アドレス帳の設定につきましては「6.補足：アドレス帳の設定」を参照してください。**

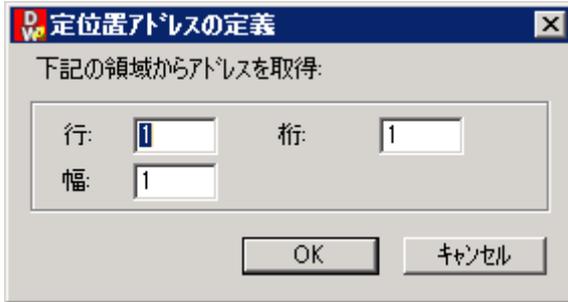
定位置文字列と浮動文字列を選択した場合は、「詳細」ボタンを押して、検索キーを取得する場所を指定します。



「**属性**」はスプールファイルの属性にセットされている文字列を検索キーとしてアドレス帳を検索します。
指定できるスプールファイル属性は、Distribution Wizard の属性条件設定で利用できる属性と同様です。

「**定位置文字列**」はスプールデータの決められた位置に印字されている文字列を検索キーとします。

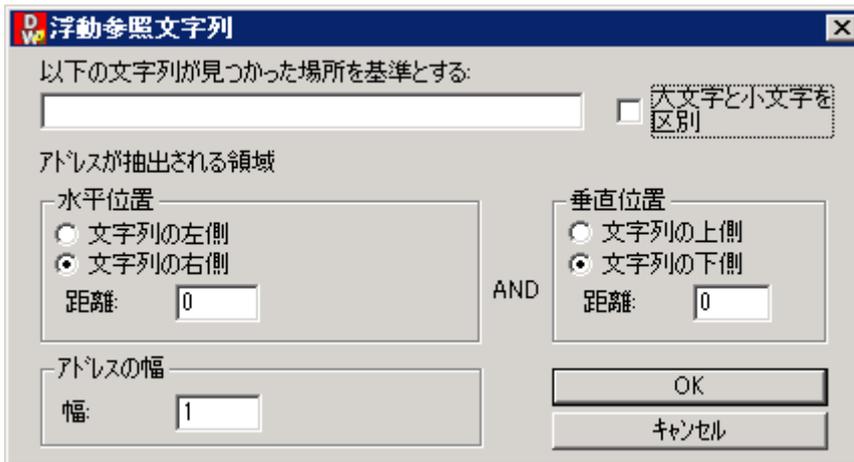
「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。



指定方法は前述の「**定位置アドレス**」と同様です。

「**浮動文字列**」はスプールデータに印字されている文字列を検索して、その文字列から見て上下左右の位置に印字されている文字列を検索キーとします。

「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。



指定方法は前述の「**浮動アドレス**」と同様です。

「フォーム」タブをクリックします。

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: FAX 優先順位: 100

言語フィルター: <<Default Language>>

全般 | カバー ページ | アドレス | フォーム | スケジュール

フォーム名: フォーム名を選択してください

フィールドマップ名: フィールドマップ名を選択してください

解像度: 中

ページ区切りフィールド:

データのみ

使用する「フォーム」と「マッピング定義」を指定してください。

解像度のデフォルトは「中」です。

「ドラフト」は、罫線などが印字されない場合がありますので、選択しないでください。

ページ区切りフィールドは、通常は何も指定しません

1つの帳票を複数に分割して処理を行いたいような場合に、ページ区切りフィールドにフォームの変数を指定する事で、その変数の値が変わったページの前までを1つの処理単位として実行する事ができます。

データのみは、通常チェックを付けません

データのみにチェックを付けた場合、出力結果は文字のみとなります。

フォームでデザインされた罫線などの情報は印刷されません

「スケジュール」タブをクリックします。

The screenshot shows a dialog box titled "サービスの定義" (Service Definition). At the top, there is a warning icon and the text "このセッションで使用するサービスを選択して下さい。" (Please select the service to use in this session.). Below this, there are two rows of controls: "サービスの種類" (Service Type) is a dropdown menu set to "FAX", and "優先順位:" (Priority) is a text box containing "100". The second row has "言語フィルター" (Language Filter) as a dropdown menu set to "<<Default Language>>". Below these are five tabs: "全般" (General), "カバー ページ" (Cover Page), "アドレス" (Address), "フォーム" (Form), and "スケジュール" (Schedule), with the "スケジュール" tab selected. In the main area of the "スケジュール" tab, there is a "優先順位:" (Priority) dropdown menu set to "中" (Medium).

この設定は、MESSAGEmanager という FAX 送信アプリケーション向けの設定になります。
MESSAGEmanager という FAX 送信アプリケーション以外を使用している場合は、
この設定を行っても有効になりません

④ファイル保管の場合

「サービスの定義」で「**ファイル**」を選択すると、以下の画面が表示されます。

右上にある優先順位の設定は、デフォルトのままとします。

短時間に大量の印刷データを受け取って、処理待ちのデータが大量に発生してしまっているような状況で、緊急度の高い印刷データを優先的に処理したい場合に、デフォルトより小さな値を指定します。

※優先順位の設定を使用する場合、マルチフォーム機能は利用できません

「**全般**」タブが選択されています。

「サービスプログラム」

デフォルトの「ウィルコムファイル サービス プログラム」のままにしてください。

「ファイルフォーマット」

このセクションで生成されるファイルの形式を指定します。

「スプールデータをフォームにマージし、PDF ファイルに変換して保管」

「**PDF ? Portable Document Format**」を選択すると、PDF 形式のファイルが作成されます。

「**XDW ? Xerox Docuworks**」を選択すると、ドキュワークス形式のファイルが作成されます。

※別途 Docuworks のライセンスが必要です。

「**TIFF ? Tagged Image File**」を選択すると、TIFF 形式のファイルが作成されます。

「スプールデータをテキスト形式で保管」

テキスト形式のファイルが作成されます。

「ページテキストと Excel テンプレートをマージして Excel あるいは CSV ファイルに出力」

Excel 形式または、CSV 形式のファイルが作成されます。

※別途スプレッドシートビルダーと Excel のライセンスが必要です。

「フォルダー名」タブ

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: ファイル 優先順位: 1000

言語フィルター: <<Default Language>>

全般 | **フォルダー名** | ファイル名 | フォーム | Excel / CSV | PDF | 機密保護 | TIFF

フォルダ名の決定方法を選択して下さい。

- 事前定義アドレス: [テキスト入力欄]
- ホストで指定されたアドレス
- 定位置アドレス: [アドレス詳細]
- 浮動アドレス: [アドレス詳細]
- コンビネーション・アドレス: [アドレス詳細]
- 式の作成: [アドレス詳細]
- 属性アドレス: [ドロップダウンメニュー]

ここでは、生成されるファイルを保管するフォルダーパスを指定します。

ファイル名に、「¥ / : * ? " < > |」の文字は、半角全角にかかわらず使用できません。半角「¥」マークは、フォルダーの区切り文字として認識されます。

ファイル名の末尾に、.pdf などのファイル拡張子を付けないでください。

フォルダー名の末尾が「.」（ドット）の場合、Windows が正しく認識しない場合がありますので、フォルダー名の末尾が「.」（ドット）にならないよう注意して下さい

7通りのフォルダーパスの決定方法がありますが、共通しているルールが3つあります。

1. ドライブ名からの指定が無い場合は、WilFile.exeのあるフォルダー直下に指定フォルダーが生成されます。

ウィルコムがインストールされているドライブがCドライブの場合、以下のようになります。

C: ¥ Program Files (x86) ¥ Pentana Solutions ¥ DocuSmart Suite ¥ Bin

このような場所にフォルダーが作成されるのは、好ましい事ではありませんので、必ずドライブ名から保管先のフォルダーパスを指定するようにしてください。

2. PCサーバーで処理を行う際、シフトイン・アウトのコードはスペースに置き換えられます。

3. 保管先パスで、¥記号の前後にあるスペースは除去されます。

「事前定義アドレス」

静的にフォルダー名を指定することができます。

(例) D: ¥ 注文書

「ホストで指定されたアドレス」

ホスト側でOUTQとリンクしている「サブスライバー」の値が使用されます。

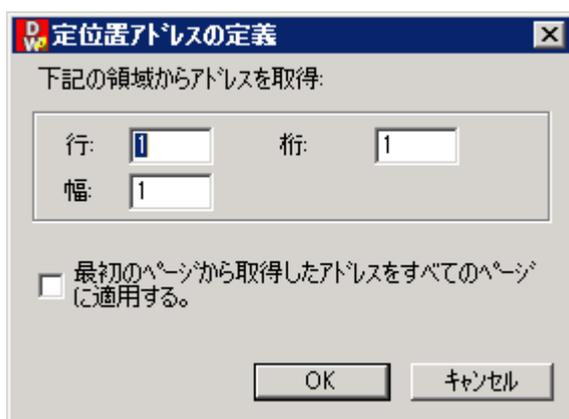
サブスライバーの登録の際に、「サービスコード」=「WA」を指定してウィルファイルの保管フォルダー名を指定していることが必要です。

サブスライバーの登録などにつきましては、Training Manual Lesson-3 (iSeries 設定の基礎) TRN063.pdf を参照してください。

「定位置アドレス」

スプールデータの決められた位置に印字されている文字列を使用して、フォルダー名あるいはフォルダーパス名を決定します。

「アドレス詳細」ボタンを押して、位置を指定します。



文字列の存在する行、文字列の開始桁、文字列の幅を指定します。

「最初のページから取得したアドレスをすべてのページに適用する。」にチェックすると、先頭ページから取得した保管フォルダのパスが、スプールファイル全ページに適用されます。つまり、スプールファイルの全ページが同一フォルダに保管されることになります。

(例)

100 取引先に対する注文書のスプールファイル 100 ページを取引先別にフォルダを分けて保管する場合。

(■ はシフトイン・アウト)

“E: ¥ **■**注文書**■** ¥ **■**A 社**■**_____” のようにスプールデータの各ページに取引先名をフォルダ名とした保管先パスを印字しておき、この部分を「定位置アドレス」として指定します。

PC Server には以下のような取引先別フォルダが生成され、100 ページのスプールファイルはページ単位に別々のフォルダに整理されて保管されます。

E: ¥ **■**注文書 ¥ A 社

E: ¥ **■**注文書 ¥ B 社

E: ¥ **■**注文書 ¥ C 社

「浮動アドレス」

スプールデータに印字されている文字列を検索して、その文字列から見て上下左右の位置に印字されている文字列を使用してフォルダ名を決定します。

「アドレス詳細」ボタンを押して、位置を指定します。

ここでは以下の例に従って説明します。

(例)

フォルダー名はスプールデータ内に印字されているが、位置はページ単位に異なる位置とする。フォルダー名の前には必ず「PATH」の文字列が印字されているとする場合。

■はシフトイン・アウト ■はスペース

“PATH■E: ¥ ■注文書■ ¥ ■A社■ ”

このような場合、フォルダー名の印字位置が確定していなくとも「PATH」の文字列をスプールデータ内に検索して、その文字列の右側にある文字列をフォルダー名として使用することが可能です。

「以下の文字列が見つかった場所を基準とする」には、「PATH」と入力します。

フォルダー名の印字位置が「PATH」という文字列と、どのような位置関係にあるかを指定します。

「水平位置」で「文字列の右側」を選択します。この場合、「距離」は 5 となります。

「距離」は検索した「PATH」という文字列から何バイトの位置にフォルダー名があるかを示しています。

「PATH」の“P” の左側にカーソルを合わせて、右に 1 バイトずつカウントしながらスライドさせた場合、5 バイト目が実際のフォルダー名の開始位置であることを示しています。

「垂直位置」は同一行にありますので、「文字列の上側」「文字列の下側」のどちらを選択しても「距離=0」であることを示しています。

「アドレスの幅」は、実際にフォルダー名が印字されている文字列の幅を指定してください。

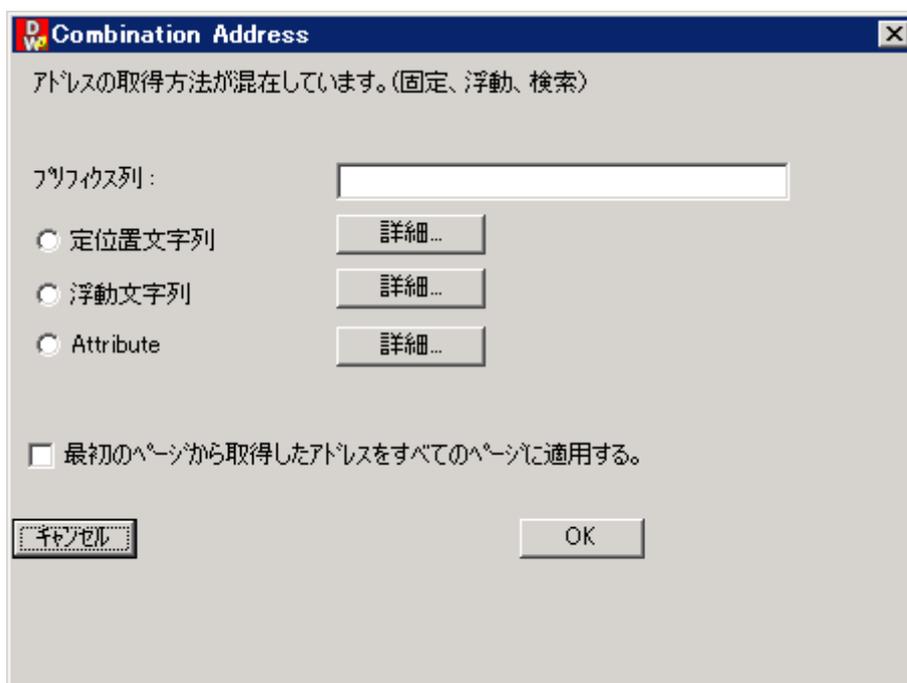
結果、「E: ¥ 注文書 ¥ A 社」のようにフォルダーが作成されます。

「最初のページから取得したアドレスをすべてのページに適用する」は「**定位置アドレス**」の場合と同様です。

「コンビネーション・アドレス」

これは、「**固定文字列**」と「**定位置アドレス**」、「**浮動アドレス**」、「**Attribute(属性アドレス)**」いずれかを組み合わせた設定となります。静的に指定した文字列とスプールデータ内に印字されている文字列を連結してフォルダー名あるいはフォルダーパス名を決定します。

「アドレス詳細」ボタンを押して、文字列を指定します。



「**プリフィクス列**」に静的な文字列を指定して、「**定位置文字列**」あるいは「**浮動文字列**」、「**Attribute**」の設定によりスプールデータ内の文字列を連結させて、フォルダー名あるいはフォルダーパス名を決定します。フォルダー名を連結させることも、フォルダーパス名を連結させることもできます。

(例)

“E: ¥注文書”というフォルダーの直下に月を識別するスプールデータの文字列を使用して、月別フォルダーを作成する場合。

「プリフィクス列」に「E: ¥注文書 ¥」と入力します。

「x月」と印字されているスプールデータを「定位置文字列」あるいは「浮動文字列」にて指定します。

この場合の結果は、以下のようになります。

E: ¥注文書 ¥ 5月

「式の作成」

固定の文字列や、帳票に印字されている文字列、帳票の属性にセットされている値などを自由に組み合わせて保管先のフォルダパスを指定できる機能です。

「アドレス詳細」ボタンを押して、設定を行います。



固定の文字を使用する場合、式という欄に、直接文字列をタイプします。

帳票に印字されている文字列を利用したい場合は、定位置または浮動を使用して設定を行います。

スプールファイルの属性にセットされている値（ユーザー名など）を利用したい場合は、属性を使用して設定を行います。

（例）

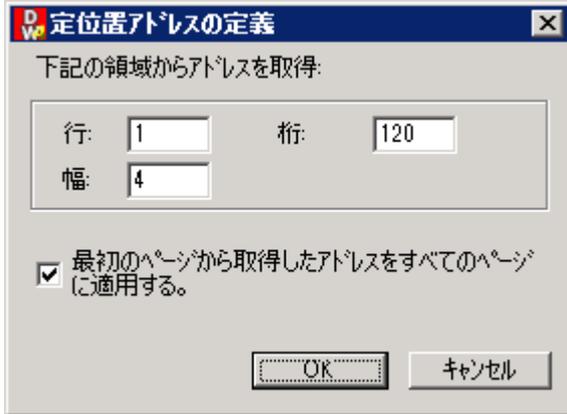
「E: ¥ 注文書」というフォルダの直下に年月を識別するスプールデータの文字列を使用して、月別フォルダを作成したい場合

「式」に「E: ¥ 注文書 ¥ 」と入力します。

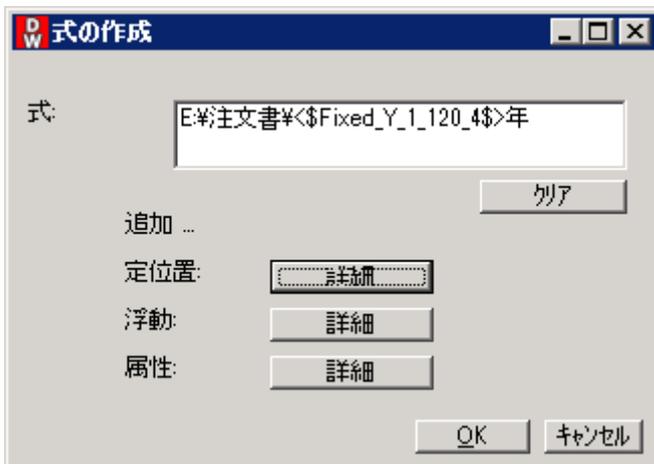


スプール内で「2019」のように年が印字されている領域を「定位置」で指定します。

例えば、1 行目の 120 桁目から YYYYY と印字されていた場合、定位置の詳細ボタンをクリックして以下のように指定します。

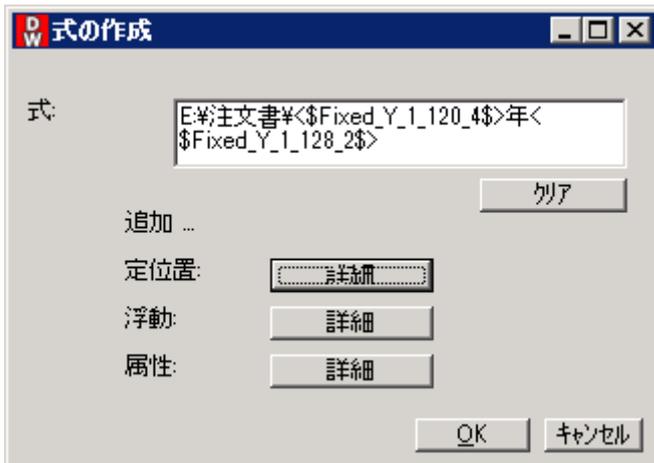
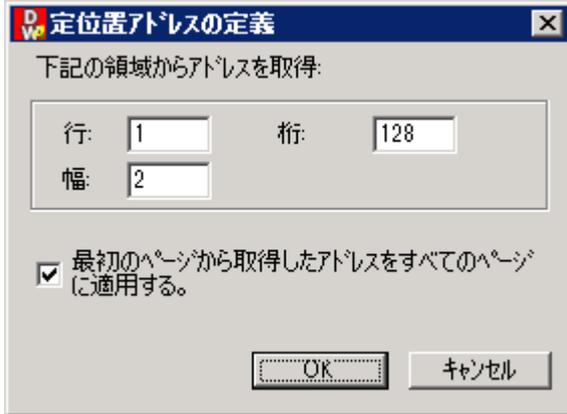


年の右側に「年」という固定文字を入力します。

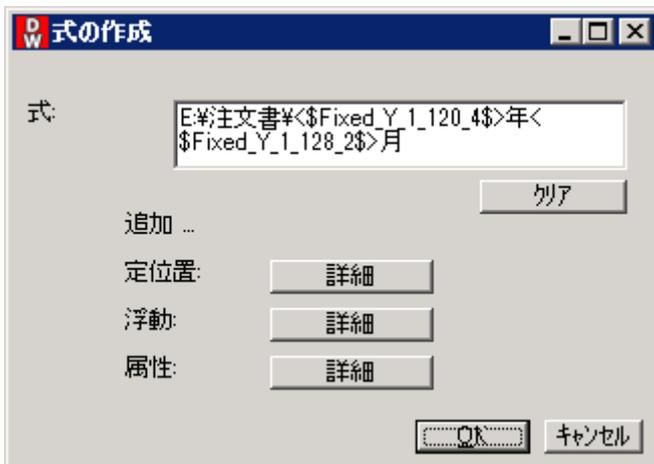


次に、スプール内で「03」のように月が印字されている領域を「定位置」で指定します。

例えば、1 行目の 128 桁目から MM と印字されていた場合、定位置の詳細ボタンをクリックして以下のように指定します。



月の右側に「月」という固定の文字を入力します。



この場合の結果は、以下のようになります。

E: ¥注文書 ¥ 2019 年 03 月

※式の作成は、フォルダー名とファイル名の両方で使用することはできません

フォルダー名、ファイル名の両方について可変の名前を設定したい場合は、ファイル名の式の作成を使用して、フォルダー名の指定を行います。詳細はファイル名の式の作成(P.27)を参照してください。

「属性アドレス」

スプールファイルの属性にセットされている文字列を使用して、フォルダーパス名を決定します。指定できるスプールファイル属性は、Distribution Wizard の属性条件設定で利用できる属性名と同様です。

スプールファイル属性項目の内、アプリケーション側で自由に設定が可能なのは、用紙タイプ (FORMTYPE)やユーザーデータ(WCUSRDТА)等かも知れません。しかし桁数の制限がありますので、細かい保管先コントロールには向いていません。

ドライブ名の指定なども必要となりますので、属性値を利用したい場合は、「**コンビネーション・アドレス**」または、「**式の作成**」を使用してください。

「ファイル名」タブ

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: ファイル 優先順位: 1000

言語フィルター: <<Default Language>>

全般 | フォルダー名 | **ファイル名** | フォーム | Excel / CSV | PDF | 機密保護 | TIFF

ファイル名の決定方法を選択して下さい:

- 既存のファイル名を使用
- 事前定義ファイル名:
- ホストで指定されたアドレス
- 定位置アドレス
- 浮動アドレス
- コンベネーションアドレス
- 式の作成
- 属性アドレス

ここでは、生成される PC File のファイル名を指定します。

ファイル名に、「¥ / : * ? " < > |」の文字は、半角全角にかかわらず使用できません。半角「¥」マークは、フォルダーの区切り文字として認識されます。

フォルダー名の末尾が「.」（ドット）の場合、Windows が正しく認識しない場合がありますので、フォルダー名の末尾が「.」（ドット）にならないよう注意して下さい

「既存のファイル名を使用」

ウイルコムが内部的に管理している処理番号がファイル名として使用されます。

“S0000000” ～ “S9999999” の範囲で自動的に決定されます。

「事前定義ファイル名」

静的にファイル名を指定することができます。

(例)

(1) “CHUMON” → CHUMON.txt or CHUMON.pdf

(2) “注文書” → 注文書.txt or 注文書.pdf

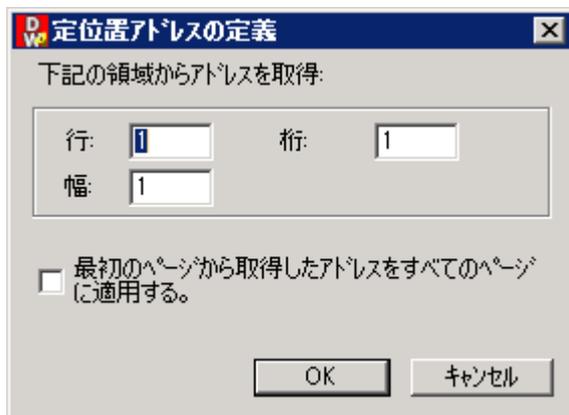
「ホストで指定したアドレス」

ここでの指定は使用できません。

「定位置アドレス」

スプールデータの決められた位置に印字されている文字列を使用して、ファイル名を決定します。

「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。



文字列の開始行、開始桁、桁幅を指定します。

「最初のページから取得したアドレスをすべてのページに適用する。」にチェックすると、先頭ページから取得した保管ファイル名が、スプールファイル全ページに適用されます。つまり、スプールファイルの全ページが同一ファイルとして保管されることになります。

この「定位置アドレス」の指定が最も一般的かも知れません。

スプールファイル単位で保管をする場合は静的な値を使用するかも知れませんが、1つのスプールファイルの中にある条件を元に保管ファイル名を振り分けたい場合に有効です。

(例)

12ページでの例で、100取引先に対する注文書のスプールファイル100ページを取引先別にフォルダーを分けて保管しましたが、更に日付別のファイルにして保管する場合。

“2019_05_31”のようにスプールデータに日付が印字されている場合、この部分を「定位置アドレス」として指定します。

PC Serverには以下のような取引先別ファイルが生成され、100ページのスプールファイルはページ単位に別々のファイルに整理されて保管されます。

E: ¥ 注文書 ¥ A社 ¥ 2019_05_31.pdf

E: ¥ 注文書 ¥ B社 ¥ 2019_05_31.pdf

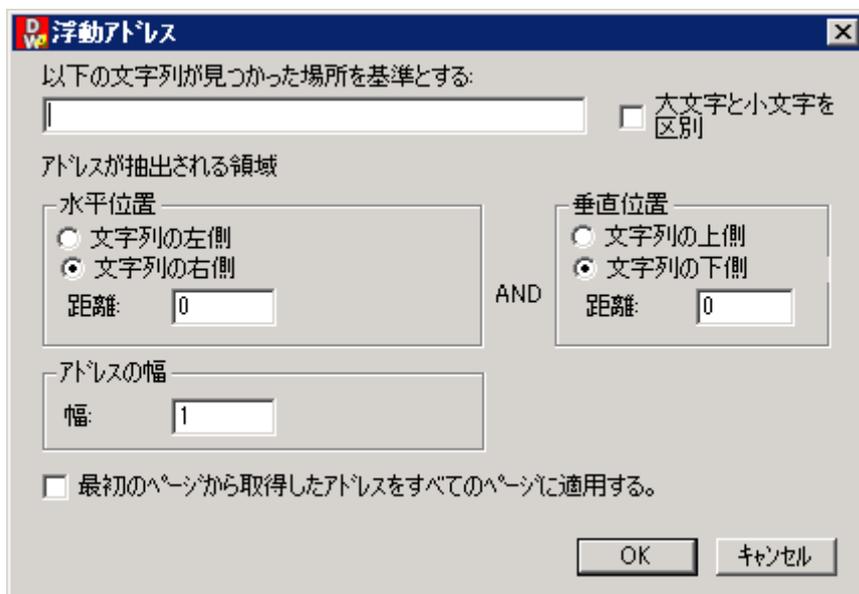
E: ¥ 注文書 ¥ C社 ¥ 2019_05_31.pdf

「フォルダー名」タブでの指定と組み合わせることで、管理する上でも検索しやすい環境を構築できます。

「浮動アドレス」

スプールデータに印字されている文字列を検索して、その文字列から見て上下左右の位置に印字されている文字列を使用してファイル名を決定します。

「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。



ここでは以下の例に従って説明します。

(例)

ファイル名はスプールデータ内に印字されているが、位置はページ単位に異なる位置とする。ファイル名の前には必ず「FILE」の文字列が印字されているとする場合。

■はシフトイン・アウト ■はスペース

“FILE■A社■”

このような場合、ファイル名の印字位置が確定していなくとも「FILE」の文字列をスプールデータ内に検索して、その文字列の右側にある文字列をファイル名として使用することが可能です。

「以下の文字列が見つかった場所を基準とする」には、「FILE」と入力します。

ファイル名の印字位置が「FILE」という文字列と、どのような位置関係にあるかを指定します。

「水平位置」で「文字列の右側」を選択します。この場合、「距離」は 5 となります。

「距離」は検索した「FILE」という文字列から何バイトの位置にファイル名があるかを示しています。

「FILE」の「F」の左側にカーソルを合わせて、右に 1 バイトずつカウントしながらスライドさせた場合、5 バイト目が実際のファイル名の開始位置であることを示しています。

「**垂直位置**」は同一行にありますので、「文字列の上側」「文字列の下側」のどちらを選択しても「距離=0」であることを示しています。

「**アドレスの幅**」は、実際のファイル名の幅を指定してください。

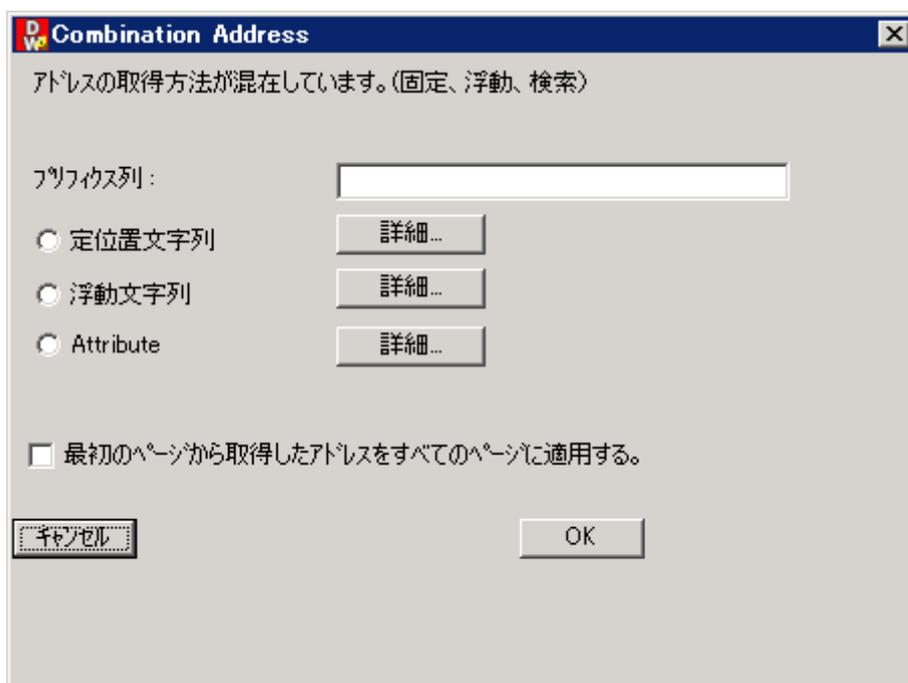
結果、「A社.pdf」のようにファイル名は決定されます。

「最初のページから取得したアドレスをすべてのページに適用する」は「**定位置アドレス**」の場合と同様です。

「コンビネーション・アドレス」

これは、「固定文字列」と「定位置アドレス」、「浮動アドレス」、「Attribute(属性アドレス)」いずれかを組み合わせた設定となります。静的に指定した文字列にスプールデータ内に印字されている文字列を連結してファイル名を決定します。

「詳細」ボタンを押して、位置を指定します。



「プリフィクス列」に静的な文字列を指定して、「定位置文字列」あるいは「浮動文字列」、「Attribute」の設定によりスプールデータ内の文字列を連結させて、ファイル名を決定します。

(例)

“注文書”の文字列の後に月を識別するスプールデータの文字列を連結させて、ファイル名を「注文書 5月」のように決定する場合。

「プリフィクス列」に「注文書」と入力します。

「x月」と印字されているスプールデータを「定位置文字列」あるいは「浮動文字列」にて指定します。

「定位置文字列」あるいは「浮動文字列」の設定方法は、20～22 ページを参照してください。

この場合の結果は、以下のようになります。

注文書 5月.pdf

「式の作成」

固定の文字列や、帳票に印字されている文字列、帳票の属性にセットされている値などを自由に組み合わせてファイル名を指定できる機能です。

「アドレス詳細」ボタンを押して、設定を行います。



固定の文字を使用する場合、式という欄に、直接文字列をタイプします。

帳票に印字されている文字列を利用したい場合は、定位置または浮動を使用して設定を行います。スプールファイルの属性にセットされている値（ユーザー名など）を利用したい場合は、属性を使用して設定を行います。

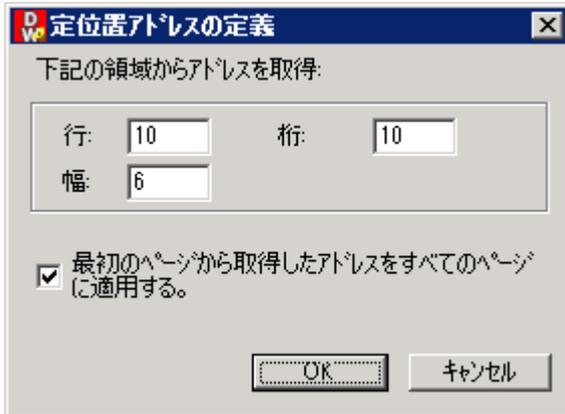
(例)

「注文番号 999999_YYYYMMDD」のように、“注文番号”という文字列の後ろに帳票に印字されている注文番号をセットし、アンダーラインを挟んで、帳票に印字されている日付をセットしたい場合。

「式」に「注文番号」と入力します。



スプール内で「123456」のように注文番号が印刷されている領域を「定位置」で指定します。
 例えば、10行目の10桁目から999999と印刷されていた場合、定位置の詳細ボタンをクリックして以下のように指定します。



注文番号の右側にアンダーラインを入力します。



帳票の印字日付を取得するため、属性の右側にある詳細ボタンをクリックし、SPFDATE を選択して OK ボタンをクリックします。



この場合の結果は、以下のようになります。

注文番号 123456_20170301

※フォルダー名で式の作成を使用した場合、ファイル名では式の作成を使用しないでください。

フォルダー名とファイル名の両方で**式の作成**を使用したい場合、フォルダー名の設定では、**式の作成**以外のオプションで、ドライブ名など指定できる部分までを指定します。(例 E: ¥ 注文書)

ファイル名の設定で**式の作成**を使用し、式の作成で指定したいフォルダー名とファイル名の両方を指定してください。

最後の ¥ 記号より右側がファイル名として使用され、左側はフォルダー名になります。

途中を ¥ 記号で区切れば、サブフォルダになります。

例えば、「E: ¥ 注文書 ¥ YYYY 年 MM 月」というフォルダーに、「注文番号 999999_YYYYMMDD」という名前のファイルを保管したい場合、固定のフォルダー名は事前定義アドレスを使用して E: ¥ 注文書を指定しておき、ファイル名で YYYY 年 MM 月 ¥ 注文番号 999999 _YYYYMMDD を定義します。フォルダー名に指定した事前定義アドレスの後ろに ¥ が追加され、その後ろにファイル名の式の作成で指定した値が追加されますので、以下のような結果となります。

E: ¥ 注文書 ¥ YYYY 年 MM 月 ¥ 注文番号 999999_YYYYMMDD.pdf

※マルチフォーム使用環境では、ファイル名となる箇所に「. 」(ドット) は使用できません。

「フォーム」タブ

全般タブで、「スプールデータをフォームにマージし、PDF ファイルに変換して保管」にチェックを付けた場合に、指定を行います。

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: ファイル 優先順位: 100

言語フィルター: <<Default Language>>

全般 | フォルダ名 | ファイル名 | **フォーム** | Excel / CSV | PDF | 機密保護 | TIFF

フォーム名: フォーム名を選択してください

ファイルマップ名: ファイルマップ名を選択してください

解像度: 中

ページ区切りフィールド:

データのみ

使用する「フォーム」と「マッピング定義」を指定してください。

解像度のデフォルトは「中」です。

「ドラフト」は、罫線などが印字されない場合がありますので、選択しないでください。

ページ区切りフィールドは、通常は何も指定しません。

1つの帳票を複数に分割して処理を行いたいような場合に、ページ区切りフィールドにフォームの変数を指定する事で、その変数の値が変わったページの前までを1つの処理単位として実行する事ができます。

データのみは、通常チェックを付けません。

データのみにチェックを付けた場合、出力結果は文字のみとなります。

フォームでデザインされた罫線などの情報は印刷されません。

「Excel/CSV」タブ

全般タブで「ページテキストと Excel テンプレートをマージして Excel あるいは CSV ファイルに出力」にチェックを付けた場合に、指定を行います。

The screenshot shows a dialog box titled "サービスの定義" (Service Definition). At the top, there is a warning icon and the text "このセクションで使用するサービスを選択して下さい。" (Please select the service to use in this section.). Below this, there are three fields: "サービスの種類" (Service Type) set to "ファイル" (File), "優先順位:" (Priority) set to "100", and "言語フィルター" (Language Filter) set to "<<Default Language>>". A tabbed interface is visible below, with the "Excel / CSV" tab selected. Underneath, there is a section titled "マージするファイルの選択" (Select files to merge) containing two dropdown menus: "Excel" set to "テンプレートを使わない" (Do not use template) and "WXT ファイル:" set to "WXT ファイルを選択してください" (Please select WXT file).

スプレッドシートビルダーで作成した定義を WXT ファイルで選択します。

スプレッドシートビルダーで作成される data シートのデータを使用して別のシートにグラフなどを表示するような指定を行ったテンプレートを用意している場合、Excel で、そのテンプレートを選択します。

「PDF」タブ

The screenshot shows a dialog box titled "サービスの定義" (Service Definition). At the top, there is a warning icon and the text "このセッションで使用するサービスを選択して下さい。" (Please select the service to use in this session.). Below this, there are three input fields: "サービスの種類" (Service Type) set to "ファイル" (File), "優先順位:" (Priority) set to "100", and "言語フィルター" (Language Filter) set to "<<Default Language>>". A tabbed interface is visible below, with tabs for "全般" (General), "フォルダ名" (Folder Name), "ファイル名" (File Name), "フォーム" (Form), "Excel / CSV", "PDF" (selected), "機密保護" (Security), and "TIFF". The "PDF" tab is active, showing a section titled "フォント組み込みオプション" (Font Embedding Options) with four radio button options: "ウィルコムで事前定義されている埋め込み方法を利用" (Use the embedding method predefined by Willcom), "フォントを埋め込まない (システムフォントを利用)" (Do not embed fonts (use system fonts)), "サブセットフォントを埋め込む。" (Embed subset fonts.), and "全てのフォントを埋め込む。" (Embed all fonts.).

ここでは PDF 形式で保管する場合のフォントの埋め込み方法を指定します。

この設定は、デフォルトの「ウィルコムで事前定義されている埋め込み方法を利用」を選択してください。

「機密保護」タブ

作成される PDF または Excel のファイルにパスワードを付けたい場合に指定を行います。

サービスの定義

このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

サービスの種類: ファイル 優先順位: 100

言語フィルター: <<Default Language>>

全般 | フォルダ名 | ファイル名 | フォーム | Excel / CSV | PDF | **機密保護** | TIFF

パスワードを使わない

パスワードの設定(半角のみ有効です)

事前定義パスワード

フォームの値を利用:

定位置アドレス

浮動アドレス

コネクションアドレス

属性値を利用

パスワードを使用するには、「**パスワードを使わない**」のチェックをはずします。

「事前定義パスワード」

静的にパスワードを指定することができます。

「フォームの値を利用」

「フォーム」タブで選択されたフォームに設定されている変数を指定します。

変数にマッピングされて入っている値がパスワードとして使用されます。

※※※※※

1 つのスプールファイルの各ページによりパスワードを変える場合は、この設定を使用します。

※※※※※

「定位置アドレス」

スプールデータの決められた位置に印字されている文字列をパスワードとして使用します。

「アドレス詳細」ボタンを押して、印字位置を指定します。

チェックは外せない
仕様です。
必ず先頭ページの値が
パスワードになります。

文字列の開始行、開始桁、桁幅を指定します。

この「定位置アドレス」の指定が最も一般的かも知れません。

スプールファイル単位で保管をする場合は静的な値を使用するかも知れませんが、1 つのスプールファイルの中にある条件を元にパスワードを切り替えたい場合に有効です。

「浮動アドレス」

スプールデータに印字されている文字列を検索して、その文字列から見て上下左右の位置に印字されている文字列を使用してパスワードを決定します。

「アドレス詳細」ボタンを押して、位置を指定します。

チェックは外せない
仕様です。
必ず先頭ページの値が
パスワードになります。

ここでは以下の例に従って説明します。

(例)

パスワードはスプールデータ内に印字されているが、位置はページ単位に異なる位置とする。ただしその場合、パスワードの前には必ず「PASSWORD」の文字列が印字されているとする。

(■はスペース)

“PASSWORD■ABC012345 _____”

このような場合、パスワードの印字位置が確定していなくとも「PASSWORD」の文字列をスプールデータ内に検索して、その文字列の右側にある文字列をパスワードとして使用することが可能です。

「以下の文字列が見つかった場所を基準とする」には、「PASSWORD」と入力します。

パスワードの印字位置が「PASSWORD」という文字列と、どのような位置関係にあるかを指定します。

「水平位置」で「文字列の右側」を選択します。この場合、**「距離」**は 9 となります。

「距離」は検索した「PASSWORD」という文字列から何バイトの位置にパスワードがあるかを示しています。

「PASSWORD」の“P” の左側にカーソルを合わせて、右に 1 バイトずつカウントしながらスライドさせた場合、9 バイト目が実際のパスワードの開始位置であることを示しています。

「垂直位置」は同一行にありますので、「文字列の上側」「文字列の下側」のどちらを選択しても「距離=0」であることを示しています。

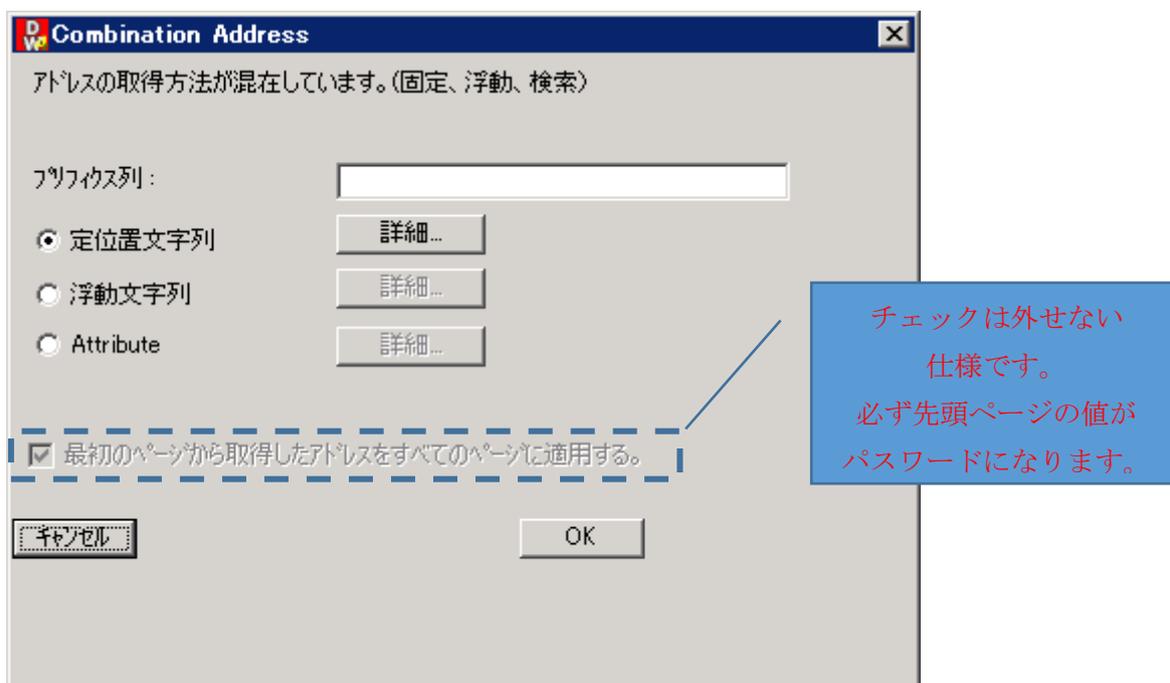
「アドレスの幅」は、実際の幅を指定してください。

結果、「ABC012345」のようなパスワードが作成されます。

「コンビネーション・アドレス」

これは、「固定文字列」と「定位置アドレス」、「浮動アドレス」、「Attribute (属性アドレス)」いずれかを組み合わせた設定となります。静的に指定した文字列とスプールデータ内に印字されている文字列を連結してパスワードを決定します。

「アドレス詳細」ボタンを押して、文字列を指定します。



「プリフィクス列」に静的な文字列を指定して、「定位置文字列」あるいは「浮動文字列」、「Attribute」の設定によりスプールデータ内の文字列を連結させて、パスワードを決定します。

「属性値を利用」

スプールファイルの属性にセットされている文字列を使用して、パスワードを決定します。指定できるスプールファイル属性は、Distribution Wizard の動作条件設定と同様です。

スプールファイル属性項目の内、アプリケーション側で自由に設定が可能なのは、用紙タイプ (FORMTYPE)やユーザーデータ(WCUSRDTA)等かも知れません。

ダブルバイト文字に関する注意事項

ダブルバイトを使用したスプールデータの文字列やスプールファイル属性を、フォルダー名やファイル名に使用する場合、ホスト上のシフトイン/アウトの処理上、若干の制限がございます。

Windows 環境ではフォルダー、ファイルのネーミングルールとして、名前の途中スペースが認められています。(例： Program Files)

ウィルコムは、ホスト上のシフトイン/アウトを全てスペースに置き換えて PC Server にデータを受け渡します。その関係で、例えばダブルバイト文字とシングルバイト文字を混在させた文字列を使用した場合に**シフトイン/アウトが置き換わったスペースなのか、故意に指定したスペースなのかを PC Server 側ウィルコムは判断することが出来ません。**

(■はシフトイン・アウト ■はスペース)

ホスト上の以下の文字列をフォルダー名に使用した場合、

E: ¥ ■注文書■020531

PC Server 上に作成されるフォルダーは、

E: ¥ 注文書■020531 (E: ¥ 注文書 020531 とはなりません)

PC Server 側ウィルコムは、パス指定の“ ¥ ”の両サイドにあるスペースは、取り除いています。

この現象はこの時点では大きな問題にはならないかも知れません。

しかし、ウィルコムは PC Server 側で配信・保管した結果をホストに返しています。ホストのメッセージリストには、上記パス情報がアップロードされます。

その際、ダブルバイト文字にはシフトイン/アウトが自動的に付加されますので、上記 PC Server での結果がホストにアップロードされた場合、ホストのメッセージリストには、以下のパス情報が返されます。

E: ¥ ■注文書■020531

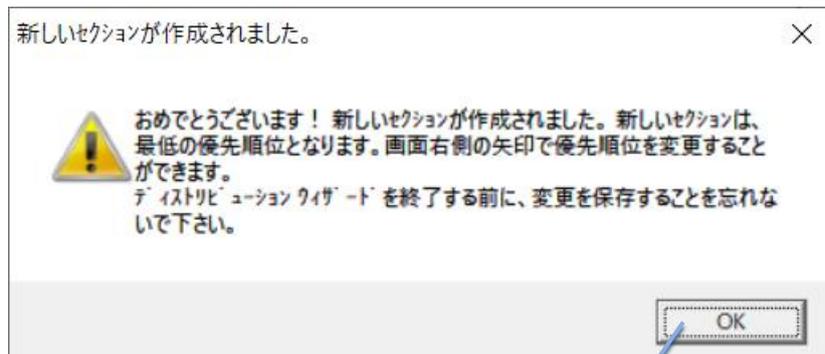
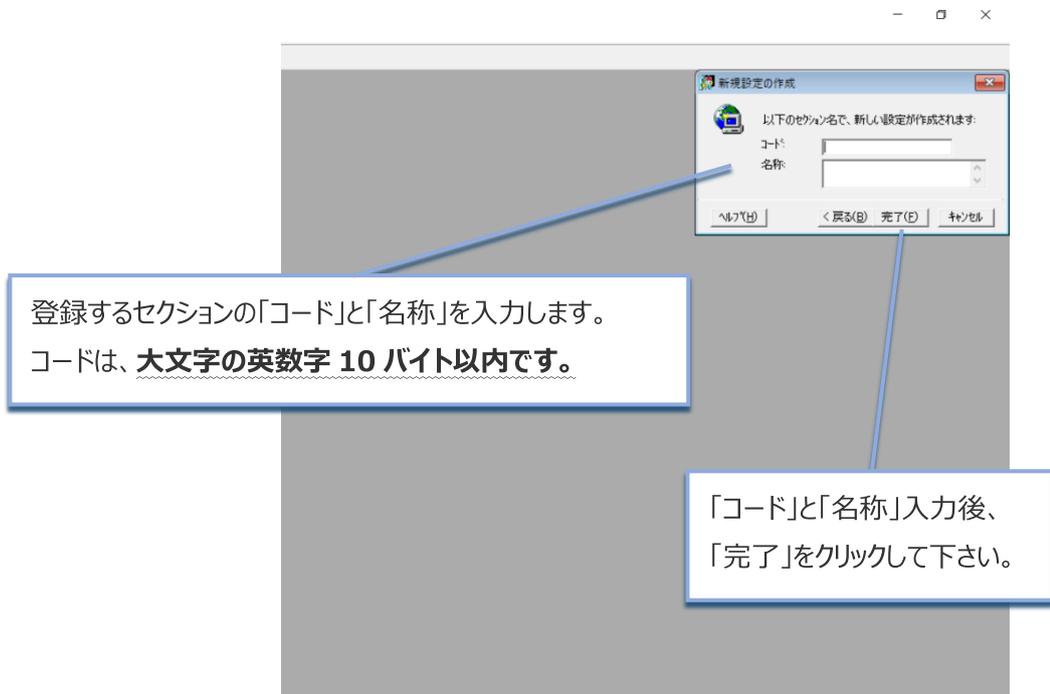
ここで、メッセージリストからの再送信を実行すると、PC Server 側には以下のフォルダーが作成されてしまいます。

E: ¥ 注文書■020531

途中スペースは 2 バイトになり、PC サーバー上では別名フォルダーとして、新たなフォルダーが作成されてしまいます。つまり、再送信の度に異なる結果となってしまいます。

以上のことから、フォルダー及びファイル名を決定する際にホスト上のダブルバイト文字列を使用する場合は、**シングルバイト文字列との混在や故意にスペースを使用することはお勧めできません。**

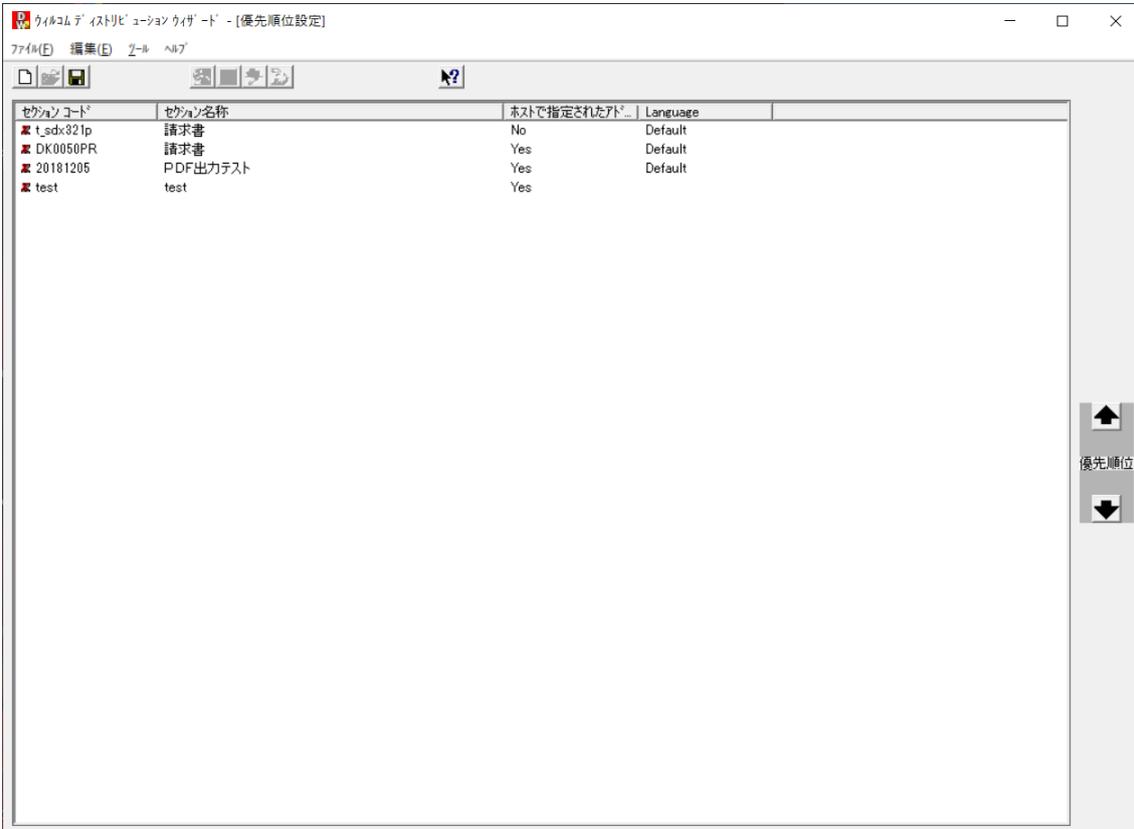
7. 配信定義(セッション)のコードと名称を設定します。



この画面が表示されたら、定義（セッション）の作成は、完了です。OK ボタンを押して下さい。

ここでは、コード＝「TEST」、名称＝「テスト配信定義」としましょう。

8. 定義済み一覧：「ファイル」→「開く」（定義(セクション)作成後にも表示されます）



ウィルコムは、スプールファイルを配信する際に、この定義済み一覧の“上から順番”にチェックを行い、最初に条件が一致したセクションを使用して配信します。通常は、それ以降のセクションはチェックせずに、ジョブを完了して次のスプールファイルの配信を行います。

表示されているセクションコードの左側の印は、そのセクションを処理した後‘継続’して次のセクションをチェックし、条件が整っていれば更に配信処理を行うことを示しています。

印は各セクションを右クリックで「継続」を選択します。

一つのスプールファイルを使用した FAX とメールの同時配信は、FAX 用のセクションとメール用のセクションを作成して‘継続’設定することで実現できます。

セクション登録の件数が多くなると、優先順位と‘継続’設定が配信計画において重要になってきます。

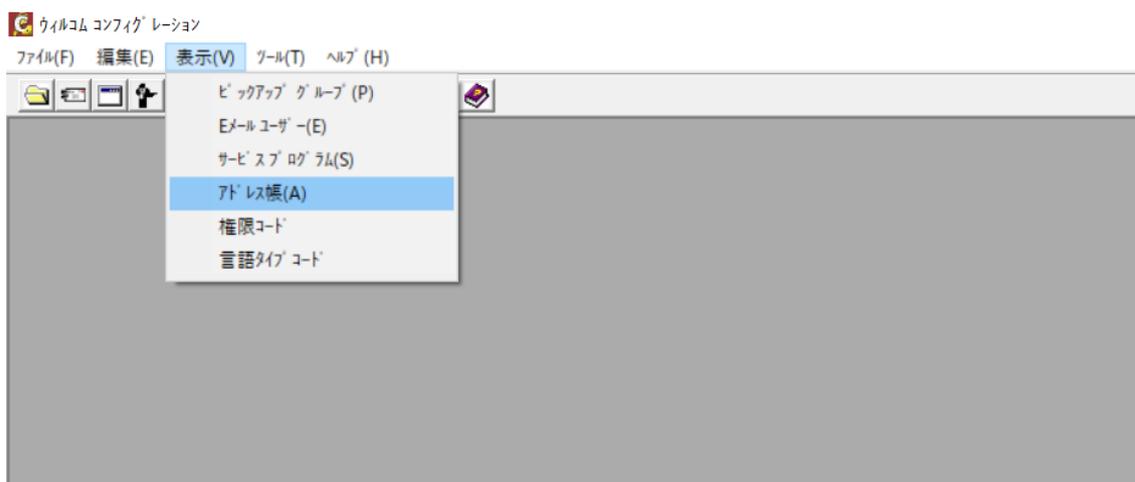
優先順位を変更する場合は、該当するセクションコードをクリックしてから、画面の右にある優先順位の上下の矢印をクリックする事によって変更出来ます。

以上で PC サーバー側の設定は完了です。

6.補足：アドレス帳の設定

アドレス帳の登録・修正方法

「検索アドレス」を使用する場合、以下の手順でアドレス帳を作成しておく必要があります。
デスクトップ上の「WilComm」フォルダー内にある「WilComm Config」を起動します。



次の画面が表示されます。

顧客コード	FAX番号	Eメールアドレス	プリンター名	テレックス番号	電話番号	会社	住所
ABC	03-1234-5678	demo@airdinku...					
HIMAWARI DS	0246-00-1234	demo@airdinku...					

① 「新規作成」のアイコンをクリックします。

② 必要な項目を入力して下さい。
尚、顧客コードに入力した値がアドレス決定時のキーワードになります。

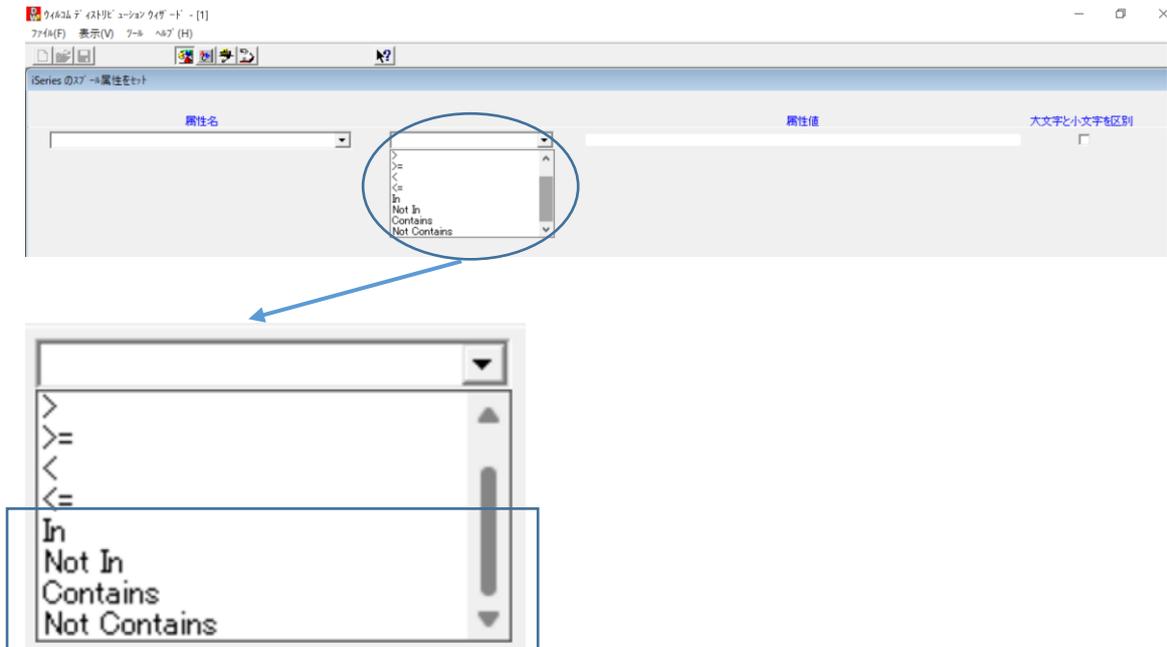
③ 入力後、OK ボタンを押します。

既に登録されている場合は、一覧表示されますので、修正を行う場合、対象となる項目をダブルクリックして下さい。

注意：アドレス帳へ登録する場合、FAX 番号・E メールアドレス・プリンター名のうち最低でも 1 つは送信先のアドレスを指定して下さい。以外の項目はメモ程度ですので入力必須ではありません。

7.補足：条件「In」と「Contains」の使用方法

属性条件設定の「In」と「Contains」



In：「属性名 In 属性値」なので、属性名が属性値に含まれていれば式が成立します。

例) JOB 名が DSP01/DSP02/DSP03/DSP04/DSP05 のいずれかであれば成立

属性名	条件	属性値
JOB	In	DSP01 DSP02 DSP03 DSP04 DSP05

※属性値の区切り文字はカンマなどでも OK です。属性名（JOB や OUTQNAME など）の内容が属性値に設定されている文字列の中にあるか判定します。

Contains：「属性名 Contains 属性値」なので、属性名に属性値が含まれていれば式が成立します。

例) JOB 名に W の文字が含まれていれば成立

属性名	条件	属性値
JOB	Contains	W

注意：属性条件設定で「In」と「Contains」を使用する場合、属性情報に全角が含まれる場合はシフトコード分の空白に注意してください。

例：ユーザーデータ（WCUSRDTA）に「注文書」の文字列がセットされている場合、WCUSRDTA にセットされる文字列は「空白 + 注文書」になります。

WCUSRDTA=注文書 （赤い枠の箇所が空白です）

※属性情報が全角文字のみの場合、文字列最後尾のシフトコード分の空白は除去されます。

ユーザーデータ（WCUSRDTA）が「注文書」、「注文書控」のいずれかであれば成立する条件を定義する場合。

① WCUSRDTA In 注文書,注文書控
「WCUSRDTA」の値は注文書なので、「注文書,注文書控」の文字列に合致しません。

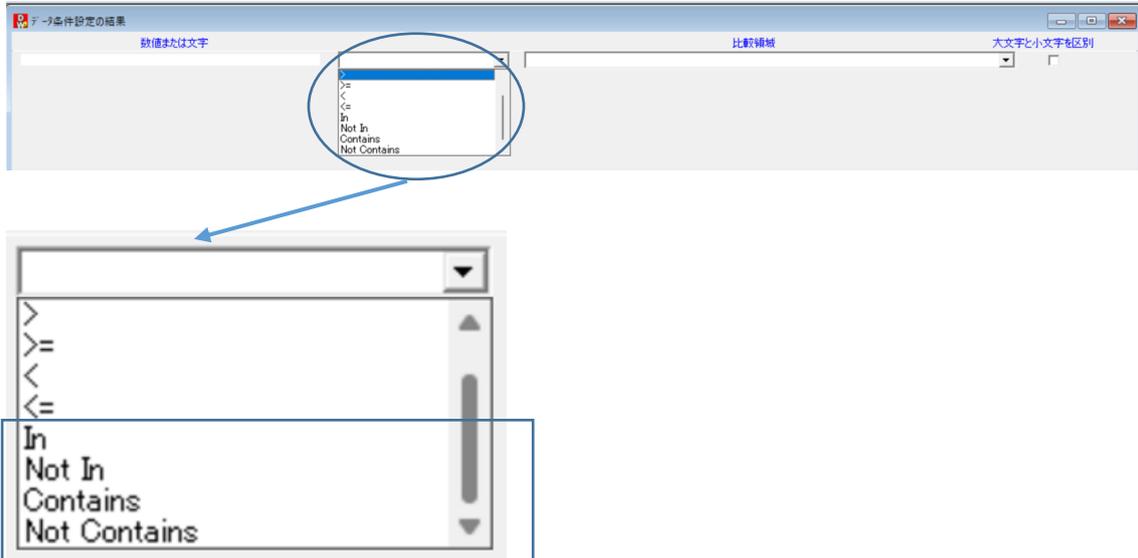
② WCUSRDTA In 注文書,注文書控
文字列に空白を指定する事で条件に合致します。

ユーザーデータ（WCUSRDTA）に「注文」という文字列があれば成立する条件を定義する場合。

① WCUSRDTA Contains 注文
「WCUSRDTA」の値は注文書ですが、「注文」という文字列が含まれるので条件に合致します。

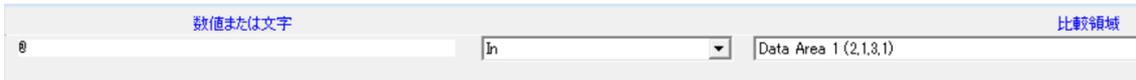
② WCUSRDTA Contains 注文
「WCUSRDTA」の値は注文書ですが、注文という文字列が含まれるので条件に合致します。

データ条件設定の「In」と「Contains」



In : 「数値または文字 In 比較領域」なので、**数値または文字が比較領域に含まれていれば式が成立します。**

例) @が比較領域（2行目1桁目から3桁）に含まれていれば成立



Contains : 「数値または文字 Contains 比較領域」なので、**数値または文字に比較領域に含まれていれば式が成立します。**

例) PGM01 または PGM02 または PGM03 が比較領域（2行目1桁目から5桁）に含まれていれば成立



注意：データ条件設定で「In」と「Contains」を使用する場合、比較領域の中に空白またはヌル値が含まれる場合に注意してください。

WilComm の仕様として、比較領域となる印字エリアの右に印字データの有無により、空白またはヌル値が埋め込まれます。

<Windows 環境に取り込まれるスプールファイルデータ>

001		活動ジョブの処理
1	5770SS1 V7R3M0 160422	
1		
1	リセット	*NO A
1	サブシステム	*ALL
1	CPU パーセント限界	*NONE
1	応答時間限界	*NONE
1	順序	*SBS
1	ジョブ名	*ALL
1		
1	CPU %0 B 経過時間

- A. 青枠の左の文字列がこの行の最後の印字データ（言い換えると、右に印字データ無し）になるので、この箇所はヌル値が埋め込まれます。
- B. 青枠の左の文字列のさらに右に印字データ（経過時間）があるので、この箇所は空白が埋め込まれます。

例：「リセット」の右の印字内容が「*NO」であれば成立する条件を定義する場合。

比較領域（データエリア）は4行目46桁目から5桁とします。

- ① *NO In 比較領域（データエリア）
比較領域（4行目46桁目から5桁）に「*NO」が含まれるので条件に合致します。

- ② *NO In 比較領域（データエリア）
※比較領域の桁数に合わせて赤枠に空白を指定。
前ページのAの箇所はヌル値になっています。（空白とは異なります）
比較領域（4行目46桁目から5桁）に「*NO 」は含まれないので条件に合致しません。

例：「リセット」の右の印字内容が「*NO」、「*NONE」のいずれかであれば成立する条件を定義する場合。

比較領域（データエリア）は4行目46桁目から5桁とします。

- ① *NO,*NONE Contains 比較領域（データエリア）
比較領域（4行目46桁目から5桁）の5桁で条件判断を行います。
比較領域には「*NO+ヌル値」がセットされているため、条件に合致しません。

- ② *NO ,*NONE Contains 比較領域（データエリア）
※比較領域の桁数に合わせて赤枠に空白を指定。
比較領域（4行目46桁目から5桁）の5桁で条件判断を行います。
比較領域には「*NO+ヌル値」がセットされているため、条件に合致しません。
空白とヌル値は異なること、また、設定画面からヌル値を指定出来ない事に
注意してください。

データ条件設定で In, Contains を使用する場合、「数値または文字」と「比較領域」の桁数は合わせて頂く事をお勧めします。